【マンガ】

八代石工ものがたり

八代を創造（たがや）した石工たちの軌跡

マンガ 向山廉平

編著 八代市日本遺産活用協議会

日本遺産
JAPAN HERITAGE

八代を創造した石工たちの軌跡
石工の郷 八代

八代石工ものがたり

八代を創造（たがや）した石工たちの軌跡

編　著　八代市日本遺産活用協議会
マンガ　向山廉平

目　次

【第１部】築城編
水辺からはじまる石のものがたり …… 3
古麓城と徳渕の津 …… 4
麦島城築城 …… 6
八代城築城 …… 10

【第２部】干拓編
肥後の課題と八代の現状 …… 16
四百町新地と大鞘樋門 …… 19
七百町新地への挑戦 …… 32

【第３部】めがね橋編
石工の郷 種山と野津 …… 45
通潤橋と丈八（のちの橋本勘五郎） …… 59
全国で活躍する石工たち …… 87
祭・名産・伝統　石工が八代に遺したもの …… 95

【資料編】
日本遺産 八代を創造した石工たちの軌跡
石工の郷に息づく石造りのレガシー …… 104

第1部
築城編

水辺からはじまる
石のものがたり

みなさん こんにちは ここは 八代海です

ザッパァ

今は16世紀 私たちのご先祖は 千年以上も前 ここにやってきたの

そう 中国の 黄河から海を 越えて渡って きたんだって

魚はいっぱいで 海も穏やか

八代は ほんなこつ よかよ

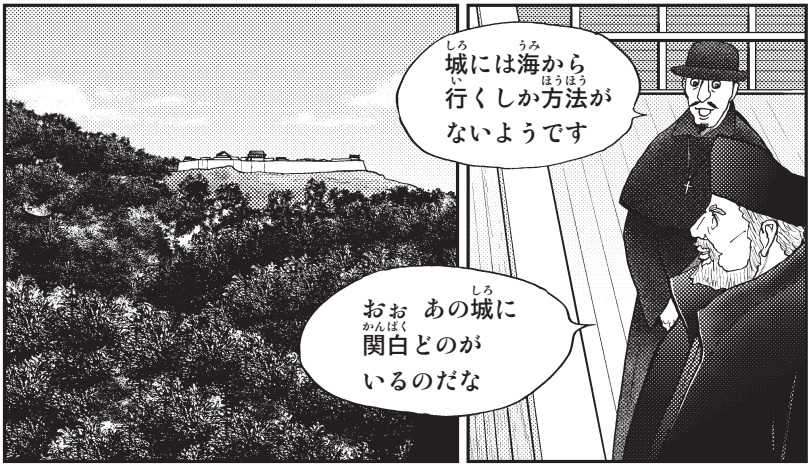
あら 八代弁！

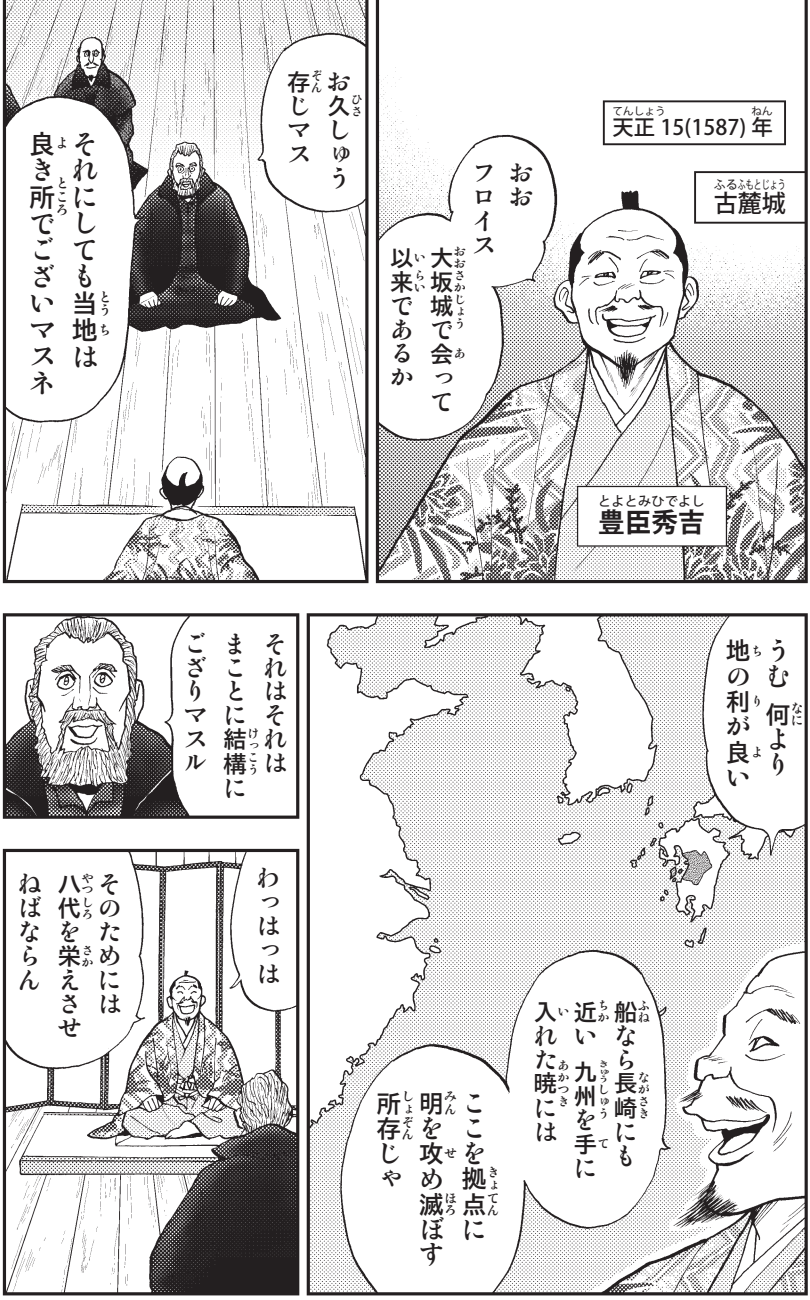
ところが大変 僕たちの住んでる 島に居られなく なるって話が あって！

そうなの！

どうして そんなことに なったかと 言うとね……

古麓城と徳渕の津
なんと美しく清らかで優雅で豊穣の地であることか！
ポルトガル人宣教師
ルイス・フロイス
美しい川に多数の岩魚が満ちています
自然は鮮やかな緞帳のようにも見える


城には海から行くしか方法がないようです
おお あの城に関白どのがいるのだな

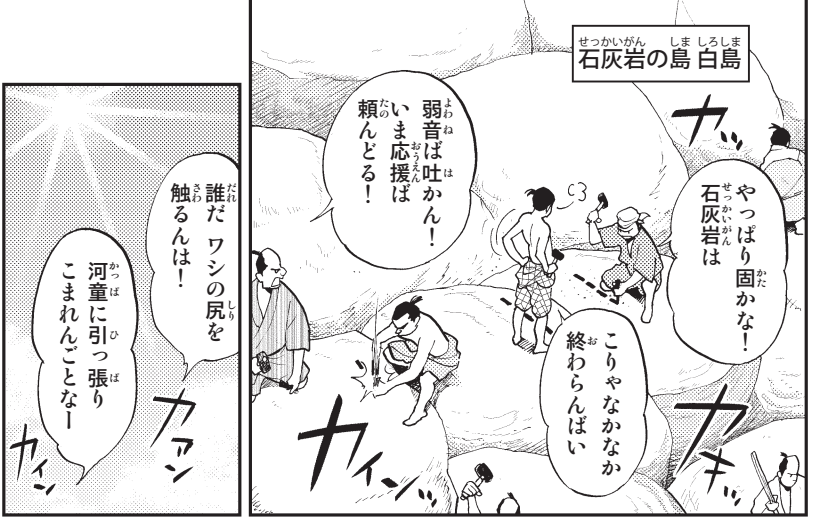

天正15(1587)年
古麓城
おおフロイス
大坂城で会って以来であるか
豊臣秀吉
お久しゅう存じマス
それにしても当地は良き所でございマスネ
うむ 何より地の利が良い
船なら長崎にも近い 九州を手に入れた暁には
ここを拠点に明を攻め滅ぼす所存じゃ
それはそれはまことに結構にござりマスル
わっはっはそのためには八代を栄えさせねばならん

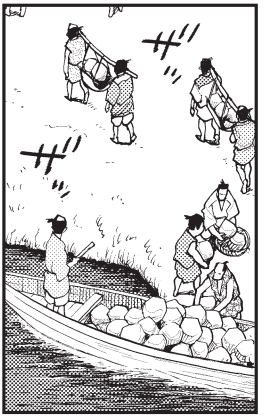
おい 行長は おらぬか
キョロ キョロ
御許に
これから 九州の海上の 支配を任せる
お前になら 良き考えも あろう
小西行長
こにしゆきなが殿は さしずめ海の司令官 なのだよ
ヒッ ヒッ
はっ 実は 徳渕の津という 良港がございます
そのそばに新しい 城を開くのは いかがと
うむ 良かろう
オーッ スバラシイ！
パチ パチ パチ パチ パチ パチ パチ パチ
麦島城 築城
天正 16(1588) 年
徳渕の津

平地に堂々と石垣を築く城は九州ではじめてである
立派なお堀も作らねばならぬ
ぜひお主らの力を借りたい
そげん遠くからは持ってこれんばい
あ――っ
うるさい！
どこから石を持ってくるかねぇ
阿蘇の近くのは切り出しやすい石ばってん…

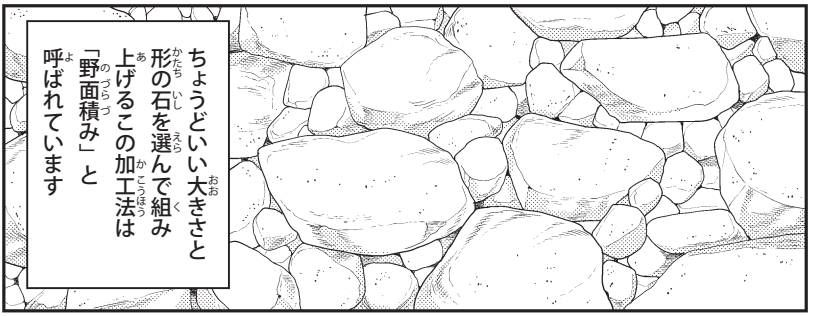
あそこに島があるではないか！
白島ですか
ありゃあ河童のねぐらになっとりますけん

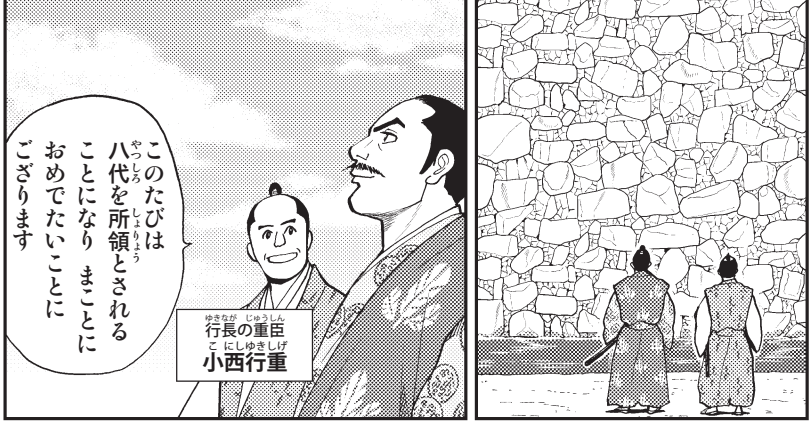
ええい そんなもんは追い出してしもたらええがな！
新しい城は球磨川の河口部にある麦島の地に建設することになっており
港につながる深い堀を作りそこに本丸二之丸三之丸を設けるという本格的なものであった


石灰岩の島 白島
やっぱり固かな！石灰岩は
こりゃなかなか終わらんばい
弱音ば吐かん！いま応援ば頼んどる！
カッ
カッ
カイン
誰だ ワシの尻を触るんは！
河童に引っ張りこまれんごとなー
カッ
カイン

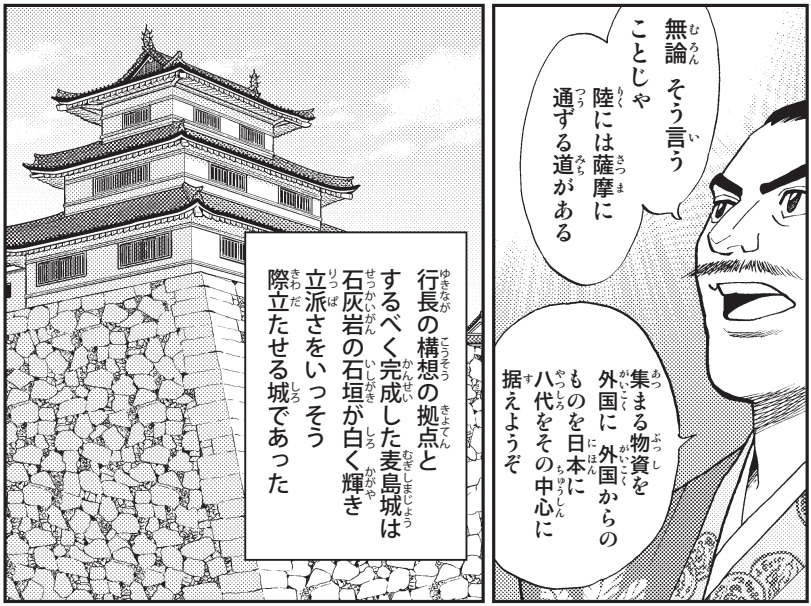

ザッ
ザッ

石と石のすき間をなるべくなくせ
あんまりでっぱりが多いと敵に登られるぞ
グッ
グッ


ちょうどいい大きさと形の石を選んで組み上げるこの加工法は「野面積み」と呼ばれています


このたびは八代を所領とされることになり まことにおめでたいことにございます
行長の重臣
小西行重

関白様よりお預かりしたからには城下をいっそう賑やかにせねばならんな
城にも船がつけられますしやはり交易を第一にお考えで


無論 そう言うことじゃ 陸には薩摩に通ずる道がある
集まる物資を外国に 外国からのものを日本に八代をその中心に据えようぞ
行長の構想の拠点とするべく完成した麦島城は石灰岩の石垣が白く輝き立派さをいっそう際立たせる城であった

八代城　築城

元和5(1619)年

麦島城の築城から
およそ30年
時代は徳川の世になり
八代は加藤氏の
所領となり
城代は加藤正方に
代わっていた

こんにちは
いいお日和で

ちゃん　お団子
たべたい！

着物よごすから
だーめ

ゴゴゴ

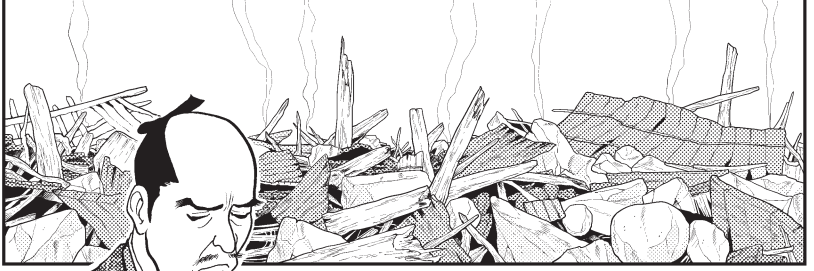
！

大きかよ！

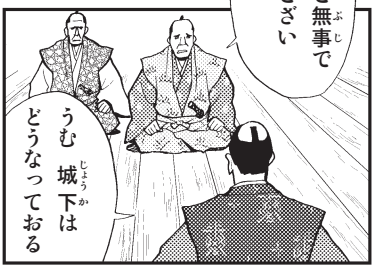
じ　地震
ばい！

逃げなん！

ああ
お城が！

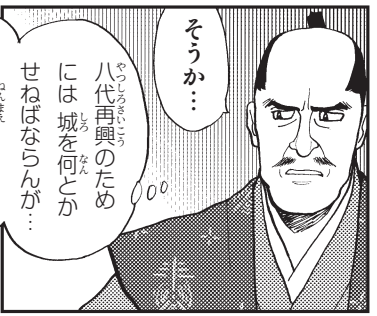


加藤正方


正方様がご無事で何よりでございました
うむ 城下はどうなっておる

死傷者が多数出ておりますゆえ急ぎ救援に当たっております

肥後
熊本城
宇土城
廃城
矢部城
廃城
麦島城
倒壊
佐敷城
廃城
水俣城
廃城
薩摩
修理ならまだしも城を新しく作る許しを果たして得られるかどうか……

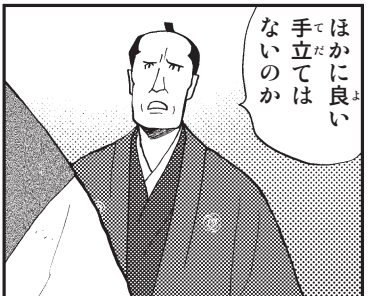

そうか…
八代再興のためには 城を何とかせねばならんが…
4年前に一国一城令が出されておる

スッ…
う――ん…
まずは薩摩への押さえを第一に据えて…
次に八代 天草 長崎海域の守りを訴え…

この両方が幕府にとってどれほど有用かわかってさえいただければ…
正方の強い思いは肥後藩から幕府へと届けられ城の再興は無事許されることとなった

八代城建設予定地
麦島城
"幕府の気が変わらぬうちに……"と
麦島城北側の松江という場所に新しい八代城の築城が進められた

石は八代海に浮かぶ島々から切り出すのが良いかと考えますが
どの島も石灰岩で固とうございますゆえ時間がかかろうかと存じます


ほかに良い手立てはないのか

崩れた麦島城の石も使わせていただけると有難いのですが

なるほどすぐ近くに格好の材料があるわけか多少縁起は悪かろうがまあ良かろう

グッ

グッ

よいか 今度の仕事は速さも求められておる一つ一つ工夫して自分の仕事に当たってくれ

そぎゃんたい こっちから城主さまを励ます良か仕事ばせなん！

グッ

グッ

しゃんしゃん急げ急げ！

わずか3年の工事で八代城は落成の日を迎えた

以前にもまして良き城ができました

八代には城が必要…みながそういう気持ちになってくれたからな

新しい城は災害で沈みきっていた八代の町の復興のシンボルとなり名もなき石工たちが己の仕事に誇りを持つきっかけともなったのである

お――い！城主さまからの振舞い酒じゃ――っ！

さあ飲め飲めまご返杯

城主さまは大変にお喜びじゃ

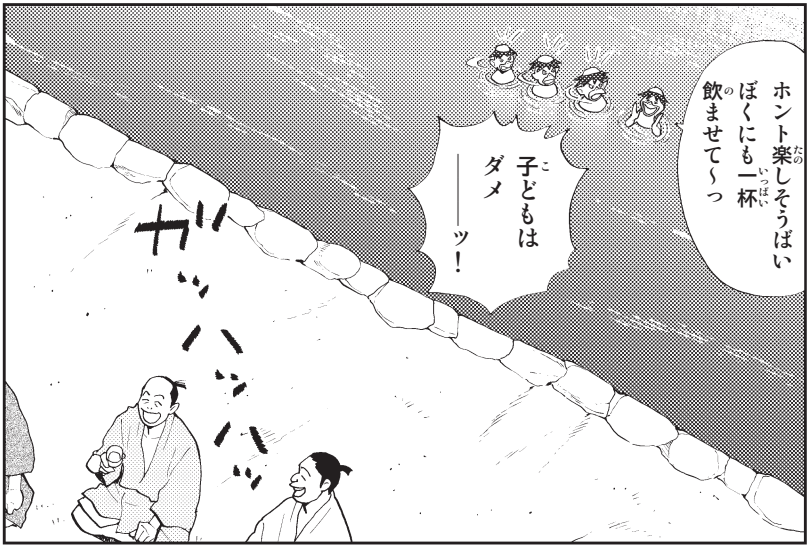
ガハハハハ

誰かのためになるっちゅうのがよかな

ほんなこっ！

わしらも勉強させてもろうと腕が上がったしのお
そうじゃそうじゃ！
ちゃぷーん

石工さんたちが石垣作りで鍛えた技術は後世の仕事にも大いに役立つことになります
これからお話するふるさと八代発展のストーリーにつながっていくんですよ
あ 私たちのねぐらの？ 海は広いし川もあるしご心配なく！


ホント楽しそうばいぼくにも一杯飲ませて～っ
子どもはダメ――ッ！
ガッハッハッハッ

第2部 干拓編

肥後の課題と八代の現状

熊本城

藩の蓄えは底をつき いくら倹約しても最早いたちごっこじゃ…

江戸表にもお伝えしておるもののこのままでは…

グラ グラ

ゴゴ ゴゴゴ

肥後藩 重臣

不知火海

さあ 時は流れて江戸後期 肥後藩9代藩主細川斉樹のころのお話たい

またまた八代の石工たちが大活躍するばい

ス〜〜…

まあ 見てくれんね

ここら辺りが八代郡の水田地帯でございます

細川斉樹

ぬかるみますゆえお気をつけを

ぬちょ

平野が狭いうえ海沿いは湿地となりなかなか作物が育たぬと聞いております

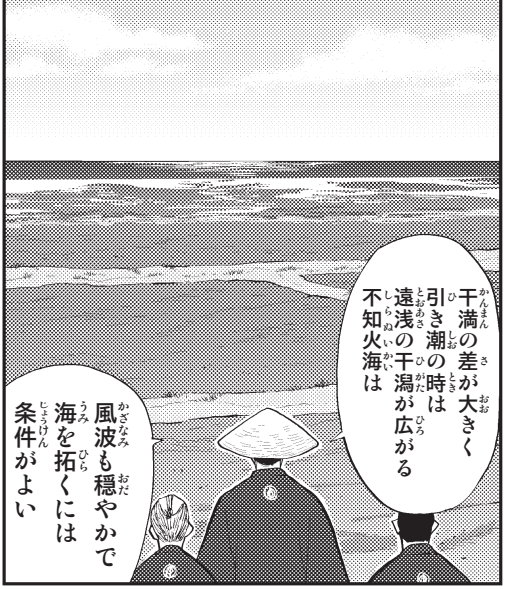
満足な米ができず魚を獲って何とか暮らすもの農地を離れて逃げ出すものもおり

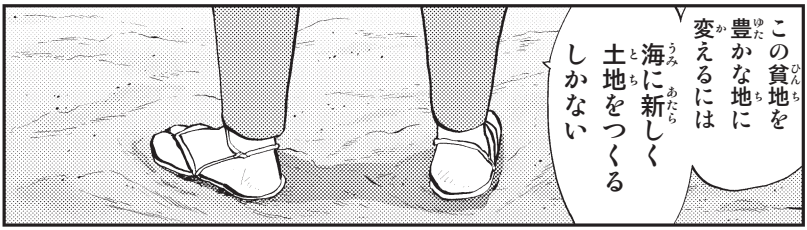
面目ない次第でございます

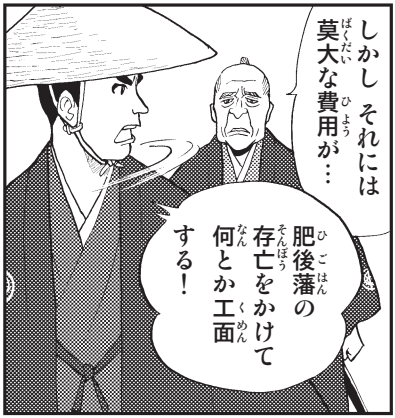
お国一の貧地とは聞いていたが…

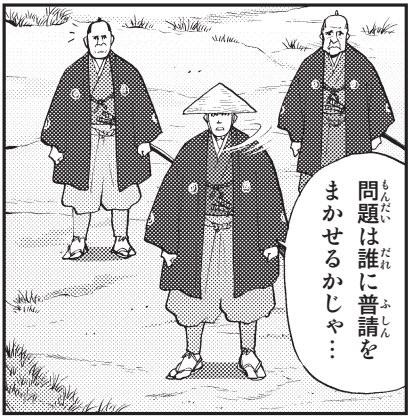
これほどとはな

この先 藩の人口は
まだ増えます
食料増産は火急の
問題かと存じます

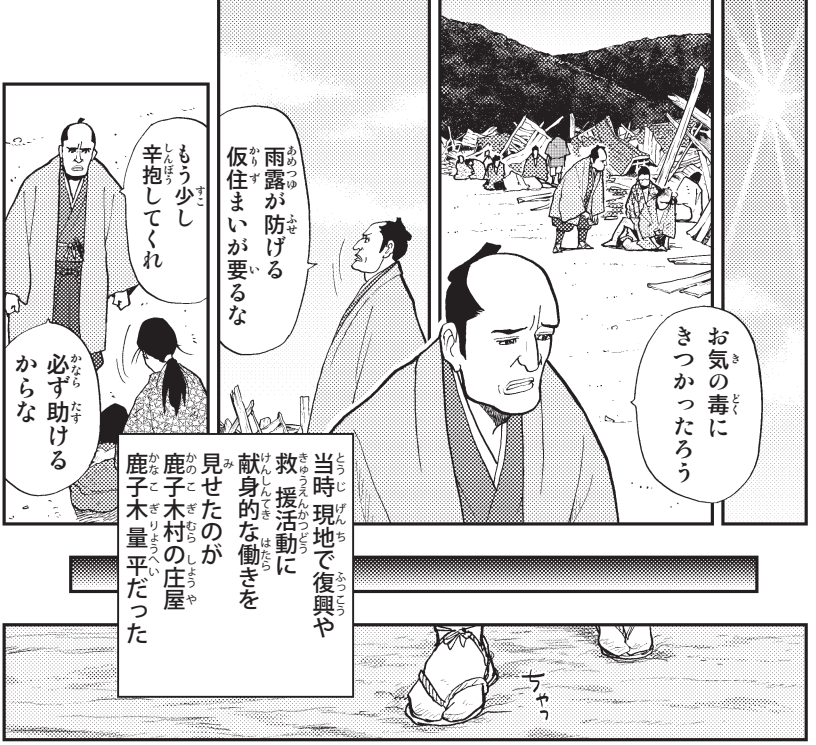

干満の差が大きく
引き潮の時は
遠浅の干潟が広がる
不知火海は
風波も穏やかで
海を拓くには
条件がよい

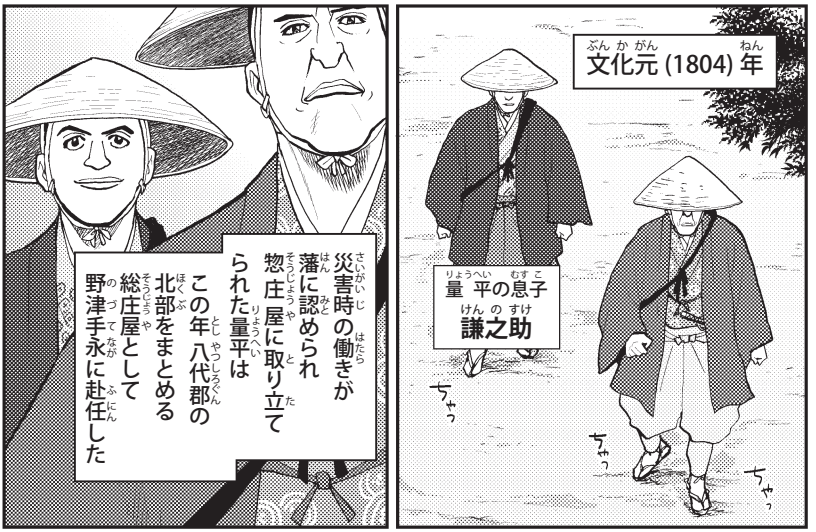

この貧地を
豊かな地に
変えるには
海に新しく
土地をつくる
しかない


しかし それには
莫大な費用が…
肥後藩の
存亡をかけて
何とか工面
する！


問題は誰に普請を
まかせるかじゃ…

四百町新地と大鞘樋門
寛政4(1792)年
実はうってつけのものが地元の惣庄屋におりまする
ほう それは？
発端は殿がお生まれになる前のことでございますが…
ドッコリ
この時の雲仙普賢岳の噴火はのちに「島原大変肥後迷惑」と呼ばれ
対岸の熊本沿岸で5千人以上の人々がなくなった
ザザザザザザ
ザバアアア


お気の毒にきつかったろう
雨露が防げる仮住まいが要るな
もう少し辛抱してくれ
必ず助けるからな
当時現地で復興や救援活動に献身的な働きを見せたのが鹿子木村の庄屋鹿子木量平だった
ちゃっ


文化元(1804)年
量平の息子
謙之助
ちゃっ
ちゃっ
ちゃっ
災害時の働きが藩に認められ惣庄屋に取り立てられた量平はこの年八代郡の北部をまとめる総庄屋として野津手永に赴任した

肥後細川藩独特の制度
～手永～

手永とは郡と村の中間に作られた組織です
郡の中の30程の村をまとめる形で約50の手永が置かれました
手永の長に当たる惣庄屋は
・領主からの法令の伝達
・年貢諸役の割付
・管内村々の争い事の調整
…などが主な役割でした

父上 この野津の地は少々荒れている様子ですね

確かにのう まず田の水はけが良くない

…はたして豊かな地になりますでしょうか

そのためにわれらはここへ来たのだ

謙之助 お前にはその並外れた頭の良さを活かしてほしい

すまぬがすぐに旅立ってくれんか？

？

会所
（手永の役所）

皆 これまでもご苦労されてきたとは思うが…

第一に考えるべきは御年貢米の完納だ
※約100ヘクタール（約1平方キロメートル）
そのために※百町の新地を拓こうと思う
確かに田が増えれば米も増えますが手間と比べるとどうでございましょうか
新地は元々ある田の水抜きにもなって地味が肥えると聞く
なるほどあとは資金でございますな
藩の懐を痛めないやり方であれば早く事を進められると考えた量平は
地元の富豪3人を説得し自力で資金を集め郡代に新地造成の許しを得ることに成功した
一方肥後から旅立った謙之助は
――
岡山城のお膝元
備前・児島湾

大規模な新地作りの先進地である備前に奉行から命を受ける形で派遣されその工法を学んでいた

まず石工にとっての腕の見せ所は樋門じゃ

排水門がなぜ左様に…

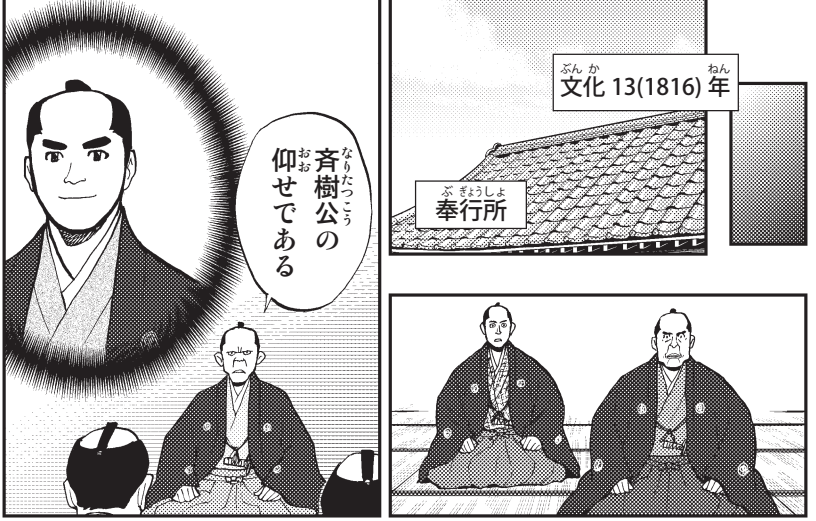
そりゃあ満潮で閉めた時海の力を全部受けるんじゃけぇ

ほー

謙之助の熱心さは備前の石工を肥後の現場に招き入れることにつながり鹿子木親子がそれぞれの役割を果たして進めた新地は無事一年で完成した

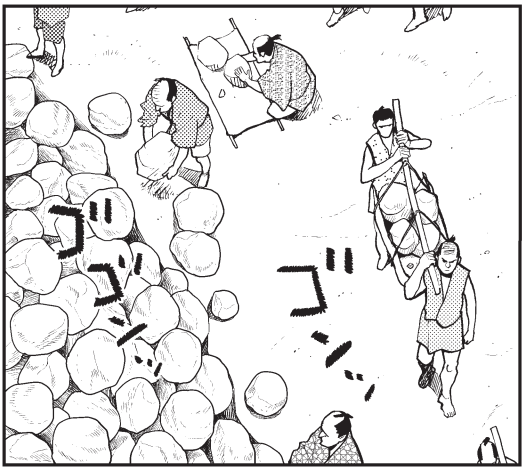
文化2(1805)年
百町新地

この事業により新しい惣庄屋は八代の人たちに好感を持って受け入れられたのである


文化13(1816)年
奉行所
斉樹公の仰せである

殿は太牟田沖の新地を急がれておる
えっ…
およそ四百町の規模になりますがそれを私どもにお任せということでございますか

相違ない早急に見積帳を提出するように
かしこまりました


ゴゴゴ
ゴゴゴ

百町新地の経験があるとはいえ10年も前のこと…

しかも今回は格段に広いうえ藩直々に資金を用意する新地だ……

ゲッゲッ

絶対に失敗は許されない！

――ということで

文政2(1819)年2月 いよいよ着工となるのですが

いったいどのような工事なのか

わたくし謙之助が父にかわって説明いたします！

満ち潮

ナナッ

干拓とは満ち潮の時は海で 引き潮では干潟になるところを農地に変えることです

引き潮

まず海に目印の竹を立てます

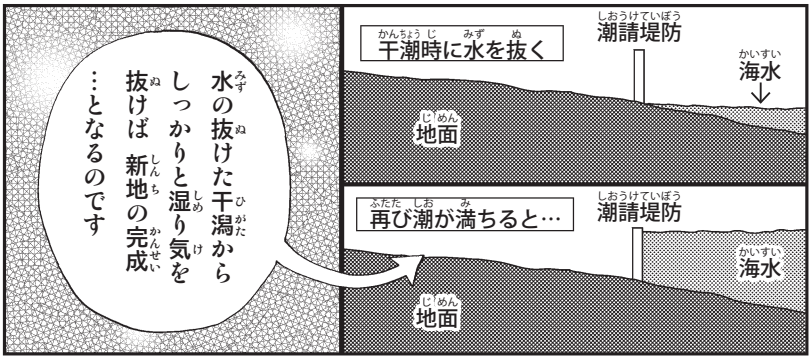
それに向かって陸から真っすぐ2本の堤防を作ります

その後2本の先端を結ぶように平行に堤防を築くのです

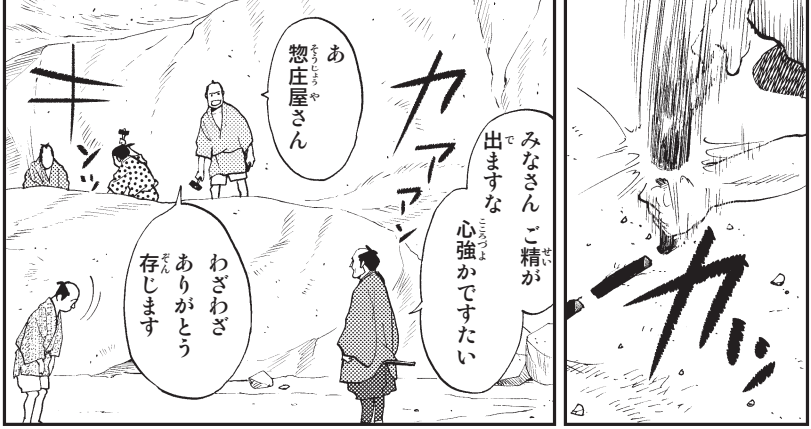
これらの堤防を潮請堤防といいます

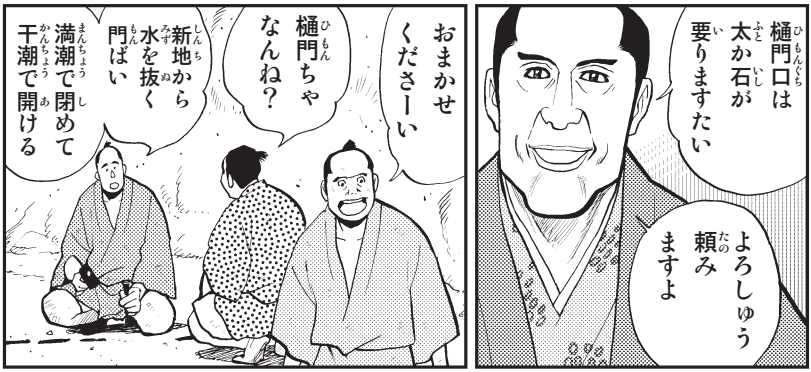
最後に残った潮止め口を干潮時に一気にふさぐ

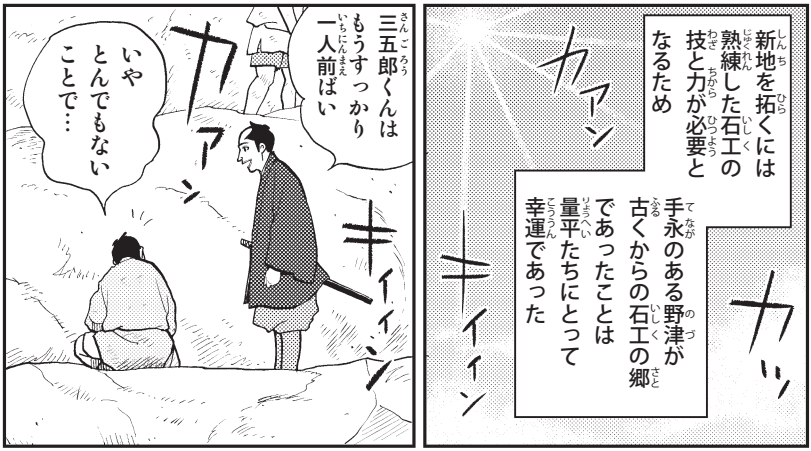
この潮留めの日が干拓の成否を決めるといっても過言ではありません



水の抜けた干潟からしっかりと湿り気を抜けば 新地の完成…となるのです


カッ
みなさん ご精が出ますな
心強かですたい
カアアン
キンッ
あ
惣庄屋さん
わざわざ ありがとう 存じます


樋門口は太か石が要りますたい
よろしゅう頼みますよ
おまかせくださーい
樋門ちゃなんね？
新地から水を抜く門ばい
満潮で閉めて干潮で開ける


新地を拓くには熟練した石工の技と力が必要となるため
手永のある野津が古くからの石工の郷であったことは量平たちにとって幸運であった
カッ
キイィン
カアン
三五郎くんはもうすっかり一人前ばい
いやとんでもないことで…
キイィン
カアン

石の筋や目を見て思い通りにタガネで割れるとだろ
まあ何とか備前の衆にも教わりましたけん
運び方 積み方でも肥後一の石工になってくれよ
堤防には主に石灰岩
樋門本体には主に砂岩
そして石垣の一部には
凝灰岩や石灰岩の
巨石が使われていた
ガゴォン
ガゴォン
ぐずぐずすんなーっ
引き潮でしかできんとだけんね！
足場の悪かぞ！
挟まれんごとな！
ザッ
ザッ
ザッ
ザッ
ザッ
ザッ

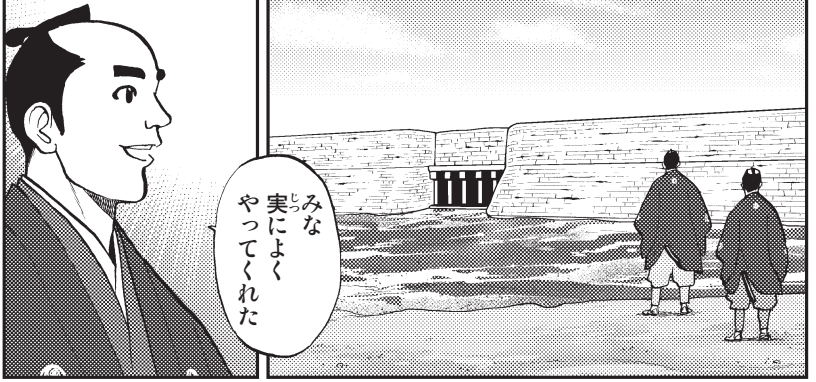
全部で5基つくられた
樋門は満潮の大きな
水圧や波力に負けない
堅牢なもので

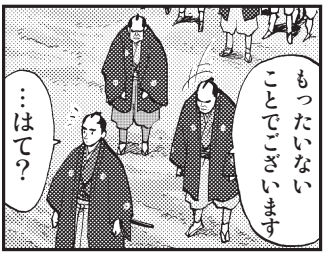
のちに
「大鞘樋門」と
呼ばれる
ようになる

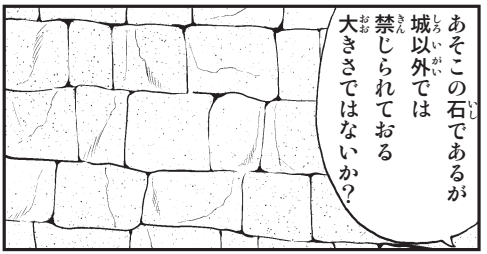
文政2(1819)年
9月

そして干拓は
およそ7ヵ月半
という早さで
完成を見た

四百町の新地が
八代平野に新たに
加わったのである


みな実によくやってくれた

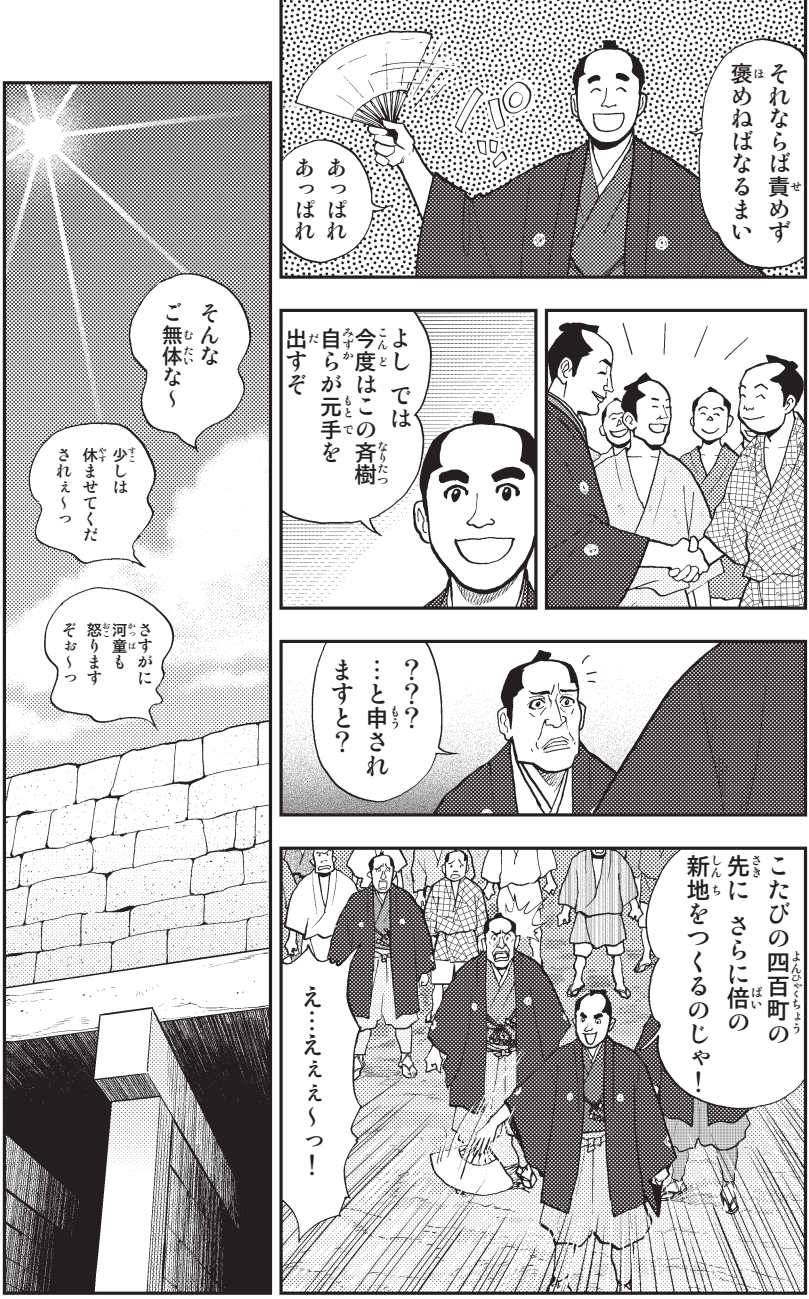

もったいないことでございます
…はて？


あそこの石であるが城以外では禁じられておる大きさではないか？

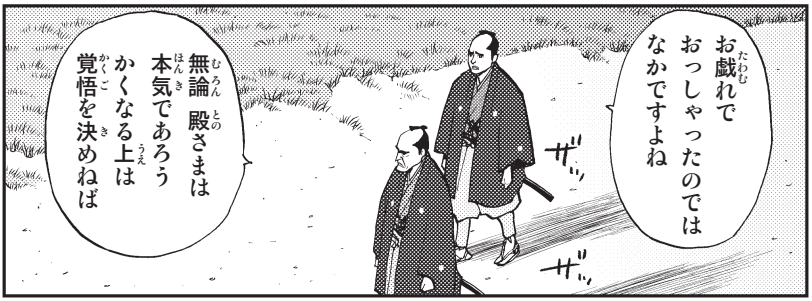
はい あれは謙之助が備前から学んできたもの

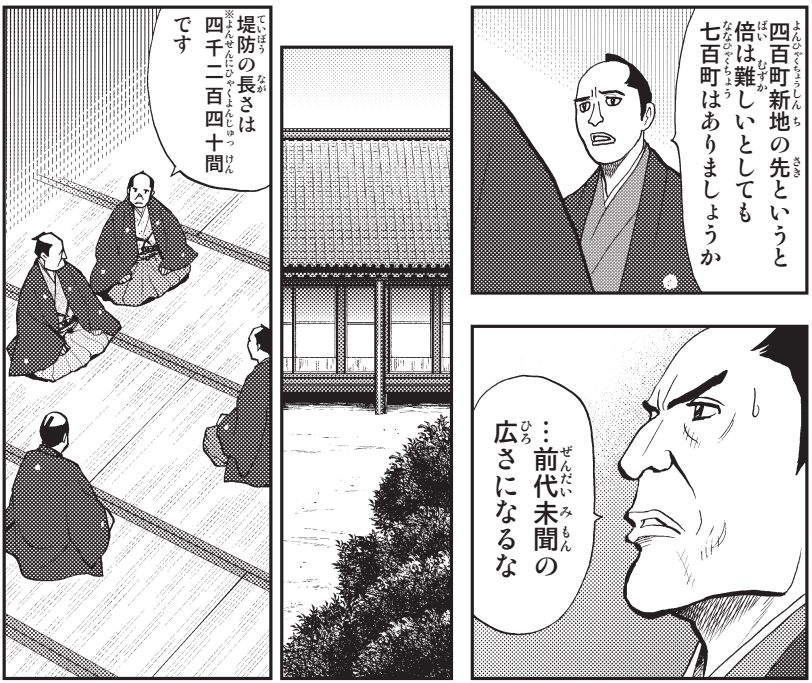
肥後にはなかった技術を野津の石工たちが使えるようになった証でございます

おお左様か


それならば責めず褒めねばなるまい
パパ
あっぱれ あっぱれ
よし では 今度はこの斉樹自らが元手を出すぞ
?? ? …と申されますと?
こたびの四百町の先に さらに倍の新地をつくるのじゃ!
え…えぇぇ〜っ!
そんなご無体な〜
少しは休ませてくだされぇ〜っ
さすがに河童も怒りますぞぉ〜っ

七百町新地への挑戦





※約7・7キロメートル

工期は早春から秋いっぱい使って10ヵ月ほど…

石工・大工・人夫・手伝い全部合わせ10万9千人が入用です

そして総費用は銀5456貫900匁

現在の金額で800億円以上と算出された

すべてにおいて限界に近い

ただの一つでも間違いのないよう入念に準備してくれ

かしこまりました

ザザッ

提案がございます

うむ

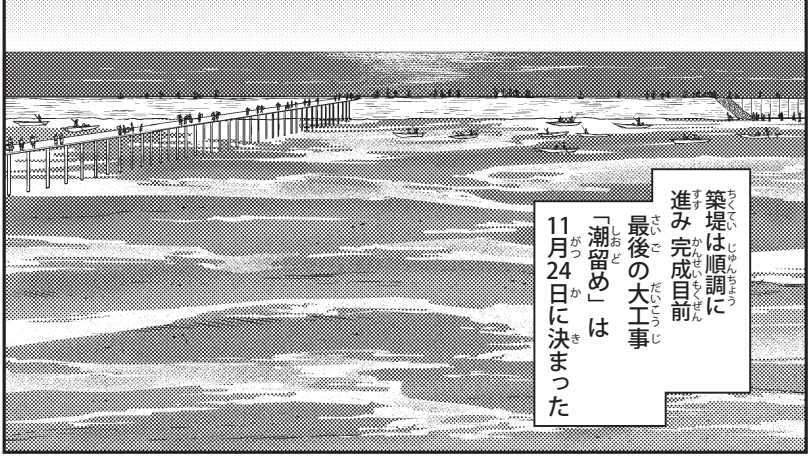
石工の取締役に三五郎を充てたいのですが

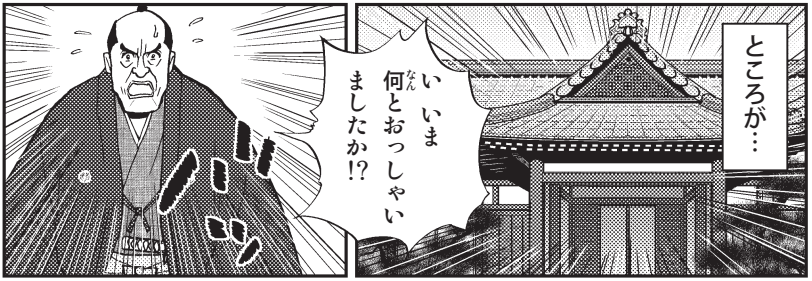
三五郎に それほどの力が ついたのか
人柄もそうですが 何よりとびぬけた 技量が自然に 人を引きつけて おります
文政4(1821)年 1月
ゲッ
四百町新地造成から 1年と少し 誰にも経験のない 挑戦が始まった
「石工共惣引廻役」に 抜擢された三五郎は 樋門建設の指導に 当たった

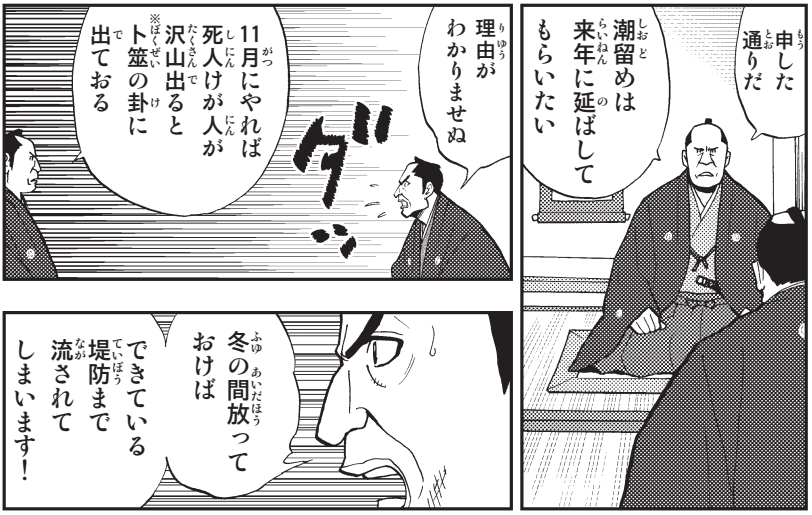
——どの樋門も期待にたがわぬ出来ばえたい
謙之助さんには感謝してもしきれません
これからの新地造営の手本になるて 父もいいよる
野津にヌシがおって ほんなこつ良かった

ゴリオン
ぬちゃ
ぬちゃ
ゴリオン
ゴンドッ
ゴリオン
ゴロッ
ゴロッ
ゴロッ
ゴリオン
ゴリオン
ドオン
ゴオォォォォ
ゴオォォン
ホガァァァァ…
ズゴォォォォ…
ゾゴォォォォ…
フゴォォォォ…

ドオオン
ゴオオオ
ゴオオン
名所
名所と大鞘が名所
名所ナ大鞘
コラショイショイ
名所にゃ水が無い
ドオオン
ゴオオン
ぶりの担いみち
知らずは
腰はかがめて
敬えゆ
唄で立つ
ゴオオン
ドオオン
お菊
鈍なやつ
だいばどんた
惚れて
だいば子もおる
妻もおる
ゴオオン
八代や天草から集められ
長く泊り込みで
働く人夫たちの間で
歌われた労働歌は
大鞘節（あるいは
大鞘名所）という名で
今に伝えられている


築堤は順調に進み 完成目前
最後の大工事「潮留め」は11月24日に決まった


ところが…
いいま何とおっしゃいましたか!?


申した通りだ
潮留めは来年に延ばしてもらいたい
理由がわかりませぬ
11月にやれば死人けが人が沢山出ると卜筮の卦に出ておる
冬の間放っておけばできている堤防まで流されてしまいます!

※易による占い

それを何とかするのが惣庄屋の役目じゃろう

いや いかに郡代の仰せでもこればかりは承服しかねます！

そうすると事故の責任はすべてお主ということになるぞ！

かまいませぬ！

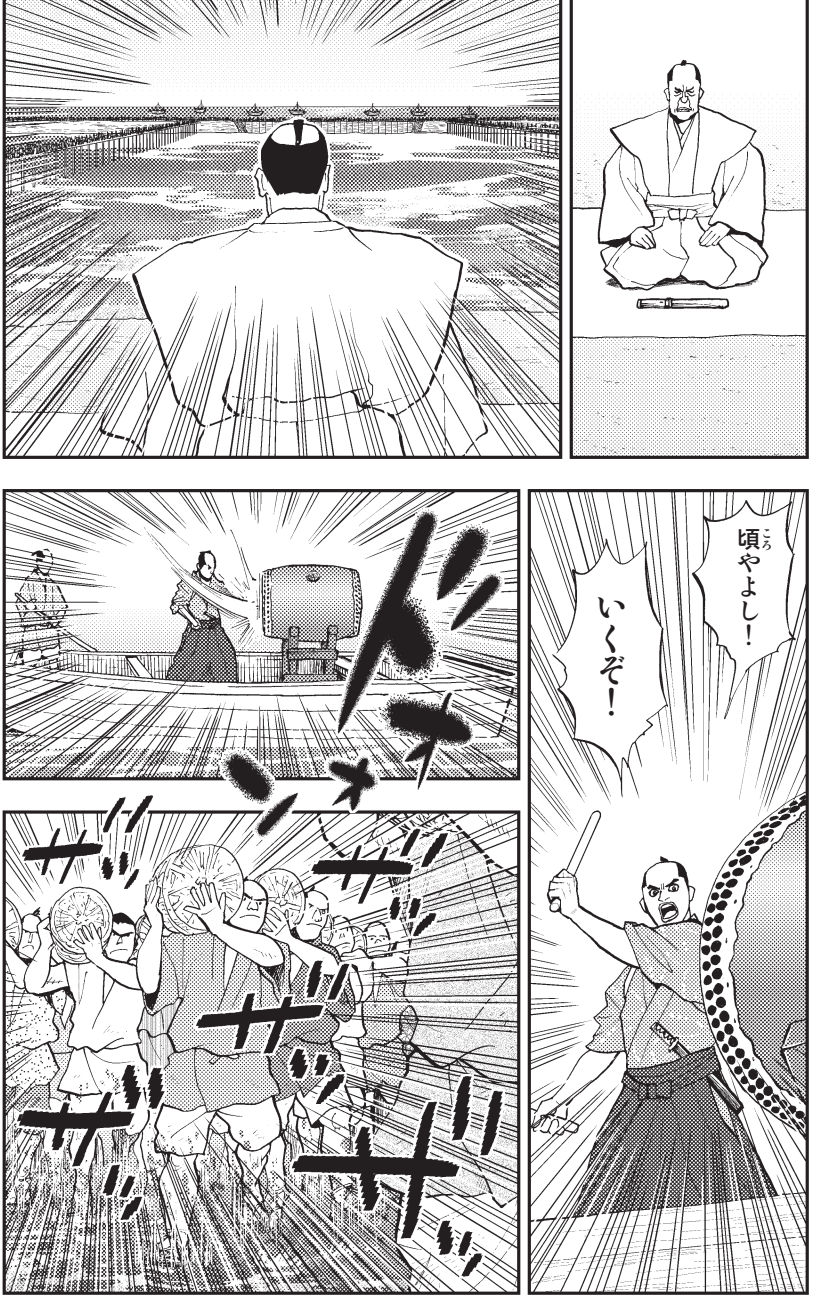
もとよりそのつもりでございます！

グッグッ

ええい勝手にいたせ！

ザザアアアア

予期せぬ雨のため1日延期された「潮留め」は11月25日に決行されることとなった


頃やよし！
いくぞ！
ドッ
ザザザザザザザザ

ザザザ

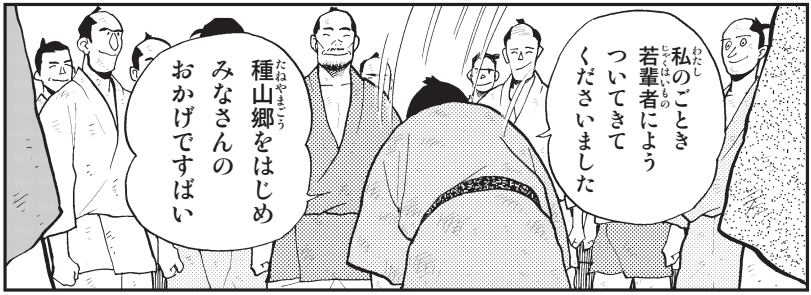
よおし！
一か所の漏れもなかばい！
万歳――ッ！
けが人はなかねー！
みなようやった！

四百町新地から
わずか2年の
文政4（1821）年
11月

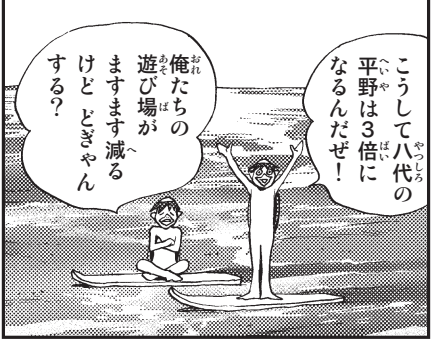
かくして
量平・謙之助親子は
七百町新地の干拓に
成功をおさめた

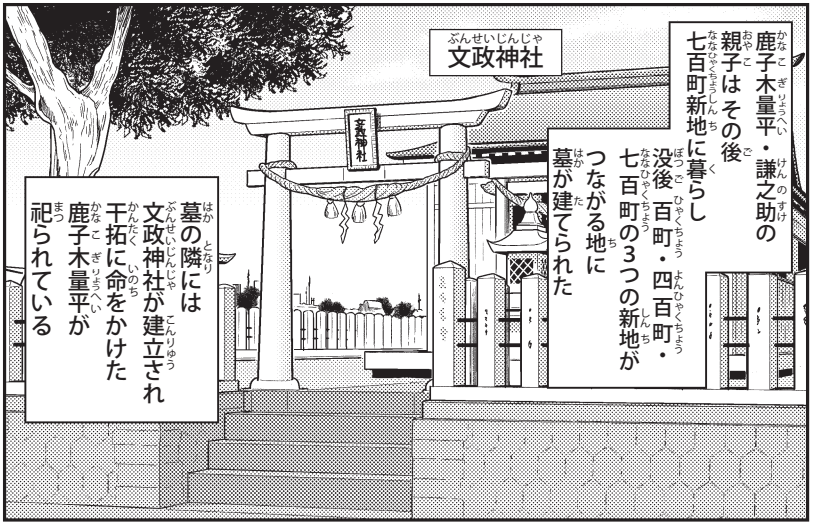
七百町新地

藩主細川斉樹は量平に100石謙之助に50石さらに鹿子木家に屋敷地1050坪を与えた
あっぱれあっぱれ


私のごとき若輩者についてきてくださいました
種山郷をはじめみなさんのおかげですばい

ほんとうにありがとうございました！
三五郎は新地造成における功績により苗字を許され岩永三五郎と名乗った
新地と樋門建造の経験は三五郎にとって石工としてさらなる成長を果たす契機となった





干拓地の水田で栽培される「い草」

新地はもと干潟だっただけに塩分は多いものの
ミネラルなどの栄養分も豊富に含まれています

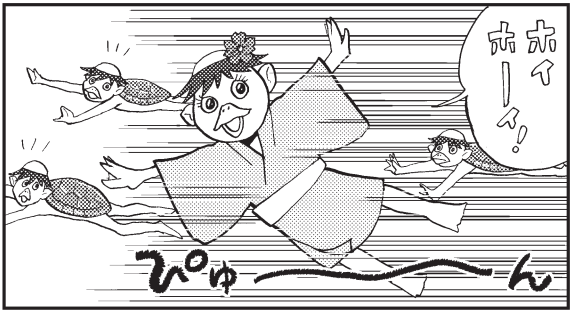
そこで八代では
塩に強い作物として
「い草」が盛んに栽培
されるようになりました

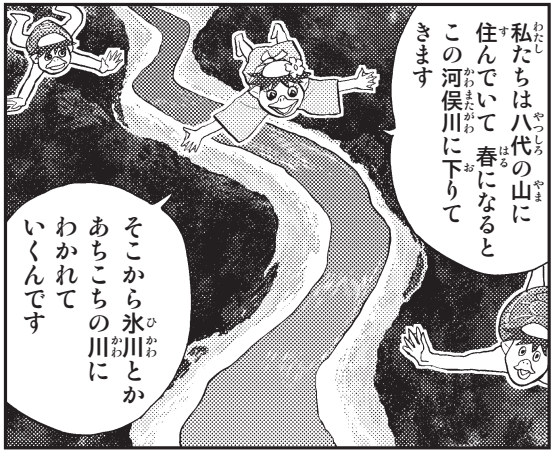
いまや国産のい草の
9割は八代で作られています
干拓地は日本の畳文化を
支えているとも
言えるでしょう

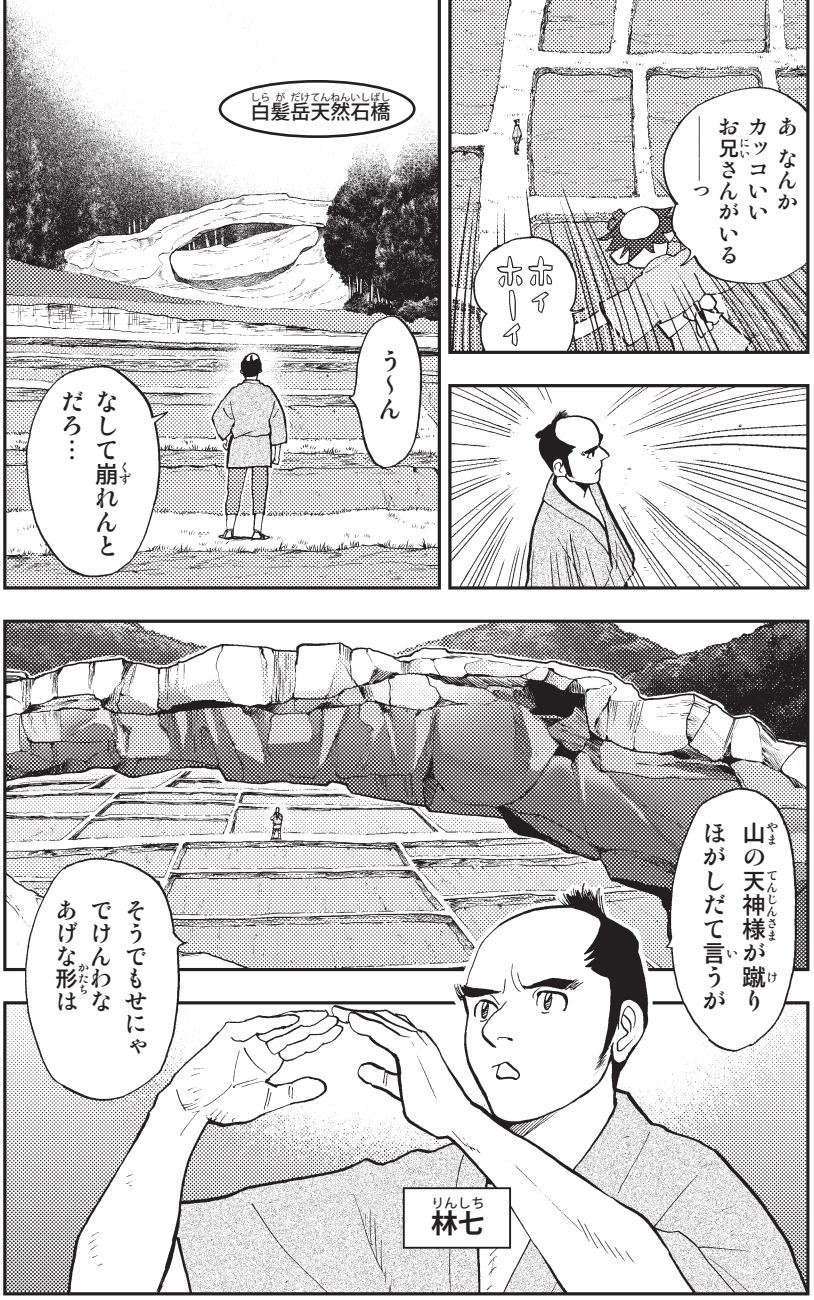
第3部
めがね橋編

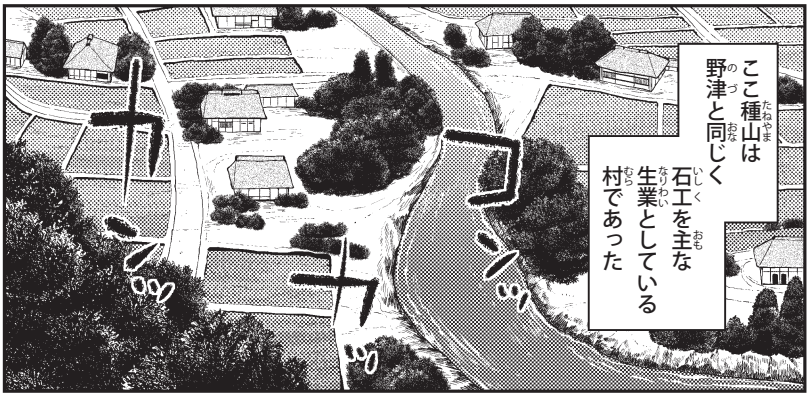
石工の郷 種山と野津

ホイ
ホイ
ひゅ






あ なんか カッコいい お兄さんがいる ――っ
ホイ ホーイ
白髪岳天然石橋
う～ん
なして崩れんと だろ…
山の天神様が蹴り ほがしだて言うが
そうでもせにゃ でけんわな あげな形は
林七

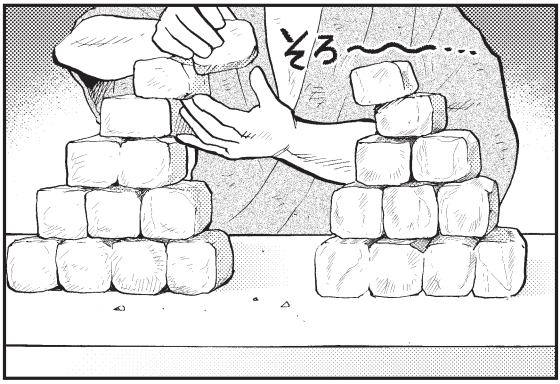

ここ種山は野津と同じく石工を主な生業としている村であった
カン
コン

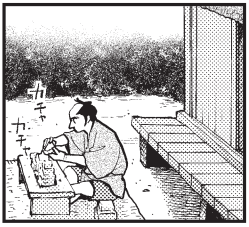
こんど入った林七はどうね
あぁ覚えは早そうばい
カ
アーン
コ

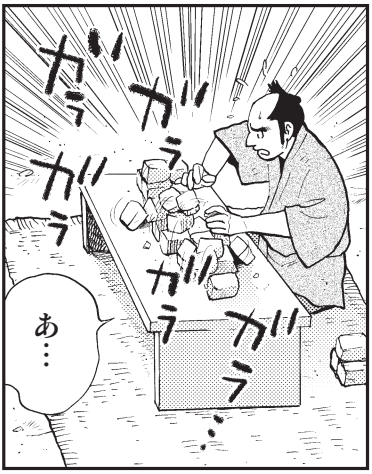
長崎の生まれやってあっちは石橋の本場やもんな
カ

ちがうそこは真上から
こげんですか？

林七はいつの日か石橋を架けられる職人になることを目指しこの村で修業をしていた
カッ


そろ〜〜〜…

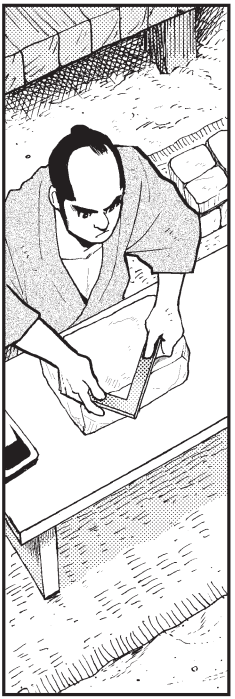

カキ
カキ

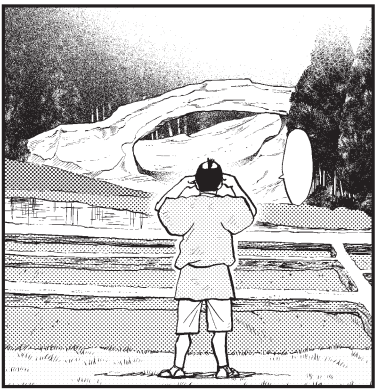

カラ
カラ
カラ
カラ
カラ
カラ
あ…

う〜ん
どうやって積めば崩れんとやろうか

ハッ
……
ガラ
ガラ
ガラ

スー…





日々努力と研究を積み重ね続けて15年――
文化元(1804)年
鍛冶屋上橋
林七は3基のめがね橋を作ることに成功した
鍛冶屋中橋
鍛冶屋下橋

アーチの直径はすべて3メートル前後の小さな橋だが種山石工の手で初めて架けられた記念すべきめがね橋である

おとろしか～

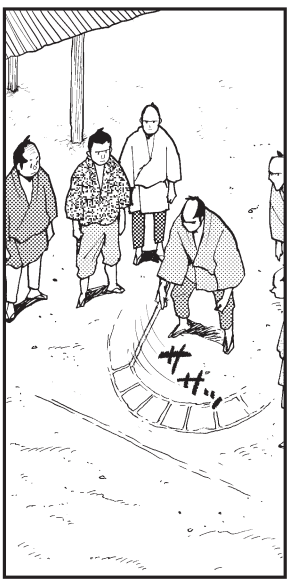
乗ってもこわれん！

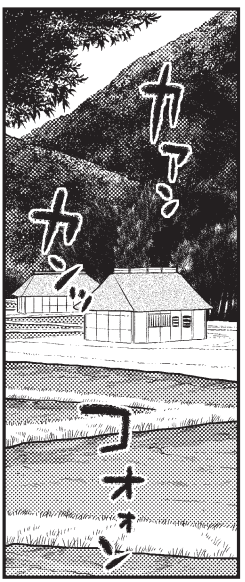
だいじょうぶばーい！

タッ

タッ

タッ





トン
よかですか ここの石の大きさを出すときには…
曲尺ば使うて…
失礼します
野津の宇七のところから参りました
あぁ聞いとります
遠いところをわざわざ
いや 氷川沿いに上ってくれば すぐですばい
今日は勉強させていただきます
どうぞ遠慮なく
そりゃそうと宇七棟梁のお子さん方はもう大きゅうなったろうもんね
下の三五郎どんももう16で わしらと一緒にばりばりやっとります
ほう そりゃ安心ですばい

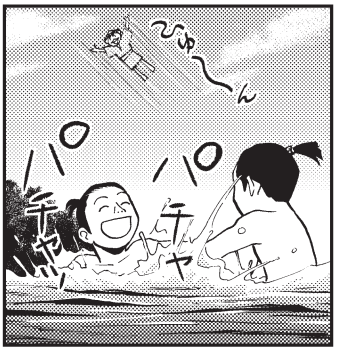
——そんなら もういっぺん 曲尺から…
種山の郷から 大きな生きがいを もらった林七は 2人の息子だけでなく 石工の郷の 職人たちに 分け隔てなく アーチ技術を 伝えていった
こうした林七流の 恩返しによって めがね橋は少しずつ 普及していくのだった

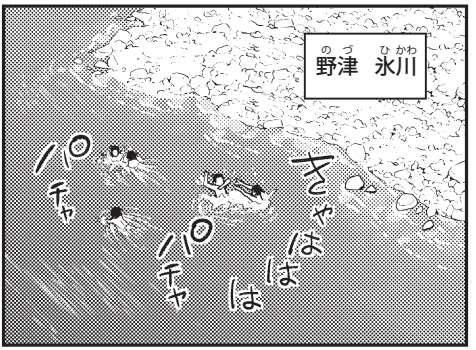
野津と種山の交流で
もたらされた技術の
伝承は
干拓地の樋門作りで
活躍した岩永三五郎にも
大きな影響を与えた
文政元（1818）年
砥用に架けた肥後初の
水路橋「雄亀滝橋」をはじめ

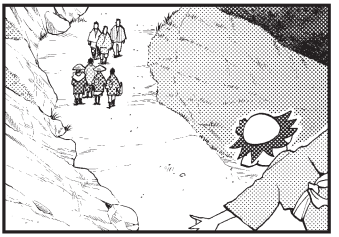
地元野津近くの
町に架けた「鑑内橋」

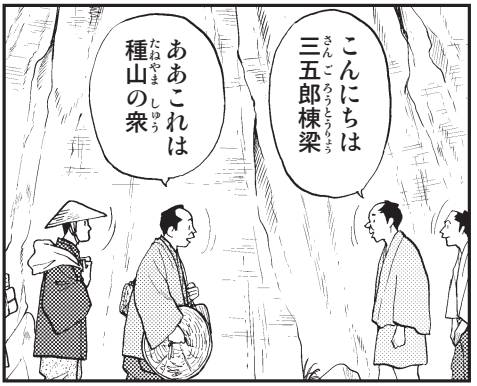
天保3（1832）年
日向往還の難所
笹原渓谷に架けた
当時最大の「聖橋」など

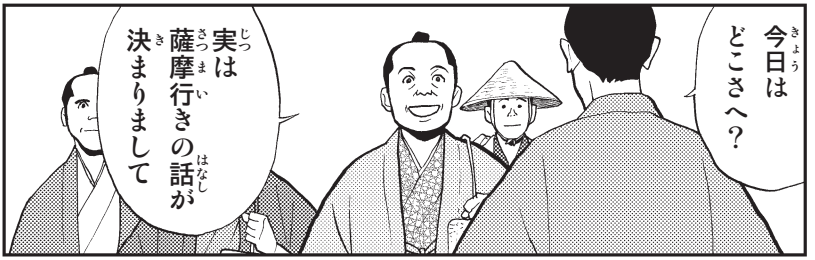
父から伝授された石工の
心意気と諸先輩から
学び取った技術の神髄が
職人として脂の乗り切った
三五郎を突き動かし
数々の名橋が生まれたのである








こんにちは三五郎棟梁
ああこれは種山の衆

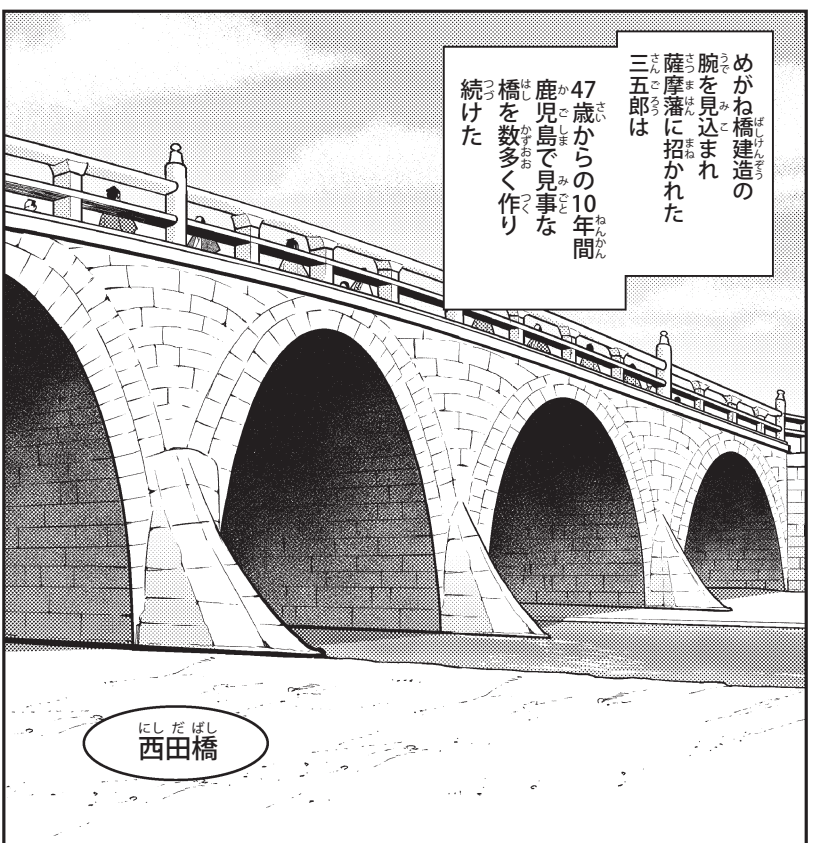

今日はどこさへ？
実は薩摩行きの話が決まりまして

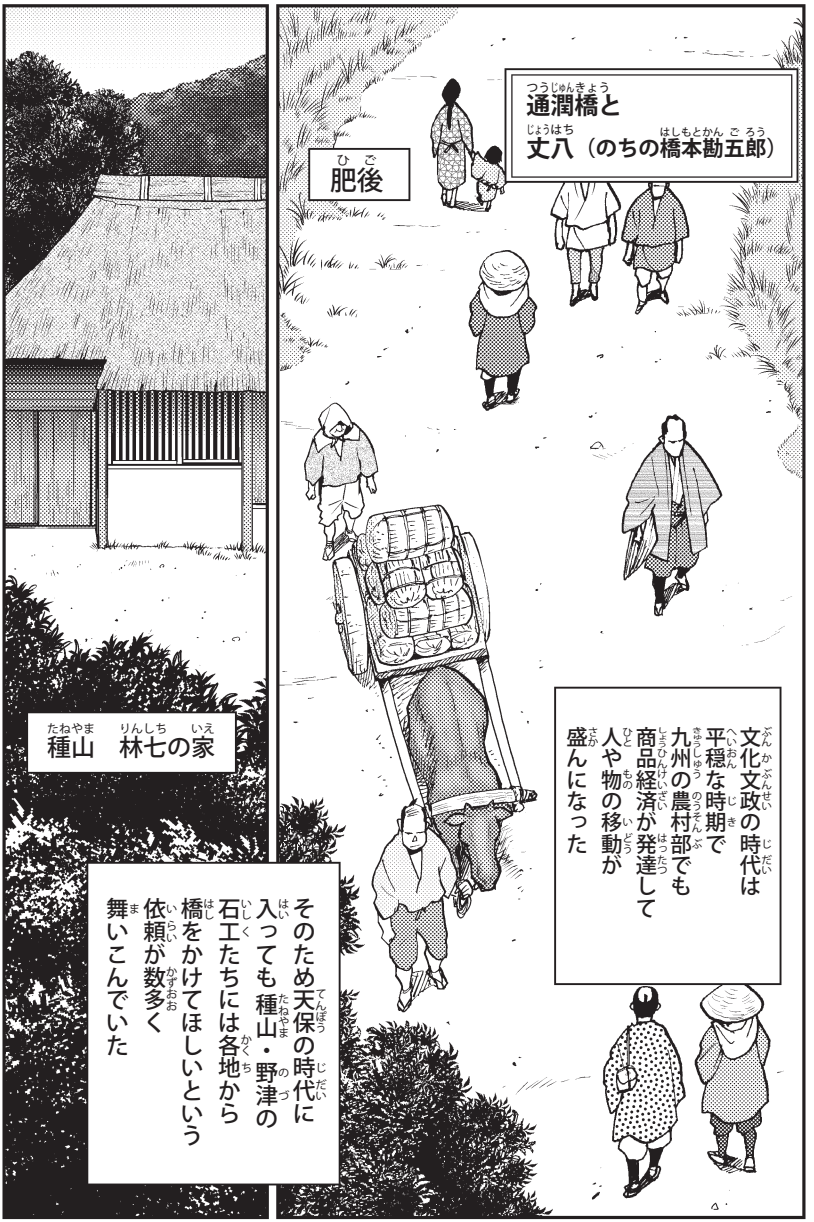
それはまた名誉なこつ
ただ行けば長くなりますな

種山にも野津にももっともっと残していきたいものがありますばってん
仕方なかです

ビュン
本当はもっと地元のために働きたくてもあれほどの名工になったら
もう自分だけの人生じゃなくなってしまうんだね
薩摩
ゴォォォォォ
ゴゴォォォ
ほう 今日は桜島の音がすごかですなぁ
あれぐれん噴火は毎日んこつじゃ

長いつき合いになるかもしれん
はよ慣れないけませんな
オ
ゴリ


めがね橋建造の腕を見込まれ薩摩藩に招かれた三五郎は
47歳からの10年間鹿児島で見事な橋を数多く作り続けた
西田橋


通潤橋と
丈八（のちの橋本勘五郎）
肥後
文化文政の時代は
平穏な時期で
九州の農村部でも
商品経済が発達して
人や物の移動が
盛んになった
種山　林七の家
そのため天保の時代に
入っても種山・野津の
石工たちには各地から
橋をかけてほしいという
依頼が数多く
舞いこんでいた

三五郎が薩摩にいる頃
林七はすでに亡くなっており
種山では長男の嘉八を
助けながら

実質孫の三兄弟
卯助・宇市・丈八が
仕事を進めていた

卯助

〝何とか
お願いします〟
としか書いと
らんのが多かな

宇市

先ずは場所や条件を
聞いてからでなからな
進まんばい

丈八

兄さん これなんか
野津の方と相談
してみたらどうかな

あぁ 先だっては
こっちも人を
出したからな

一口にめがね橋を
架けるといっても
何をどうお願いすれば
いいのか 用意する
ものは何なのか
依頼主には見当が
つかぬことが多かった

種山・野津の石工らは依頼主の希望を入れた細かな設計資金確保の相談施工管理などを各窓口で対応し総合的に請け負うことができる専門家集団だったのである

何に一番お困りですか？

遠慮なくお申し出ください

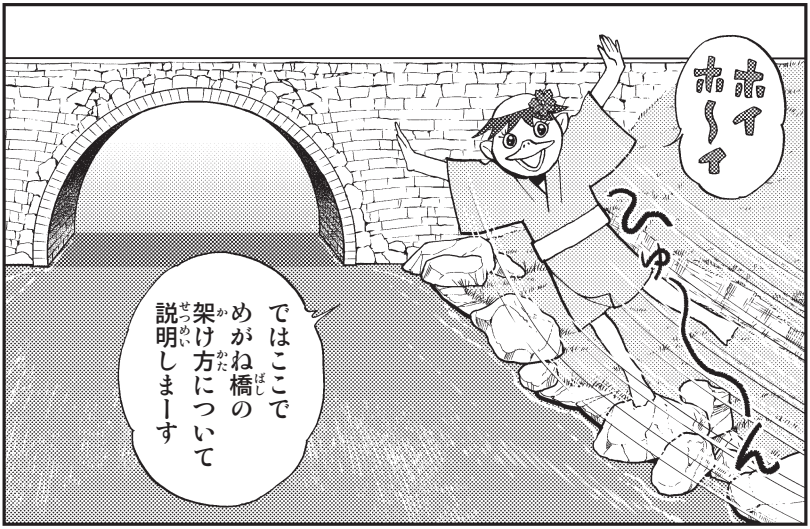
お金も時間もかかりますので郷のみなさんの理解が大切ですよ

ご希望の完成時期は？

受注・資材要員 長男 卯助

見積・資金相談 次男 宇市

設計・工程調整 三男 丈八



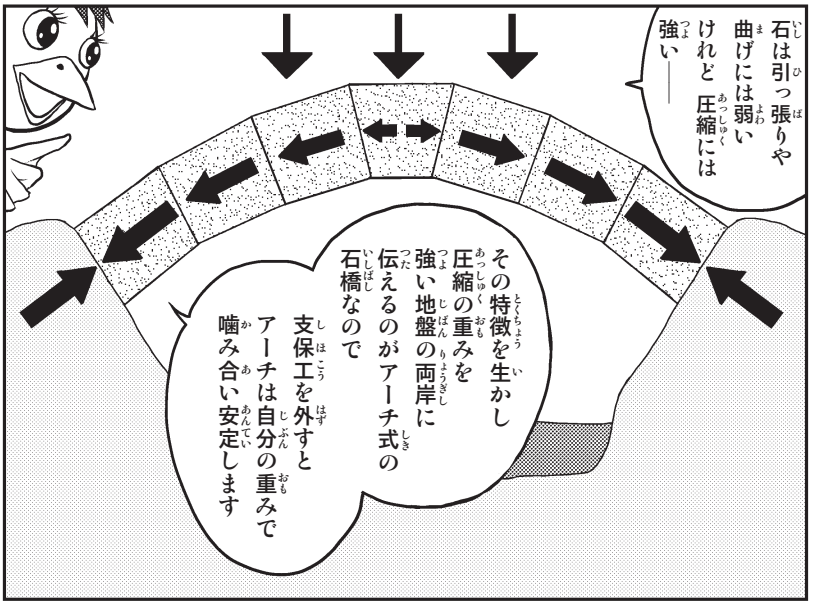
まず必要な石を切り出して運び・削って形を整えます

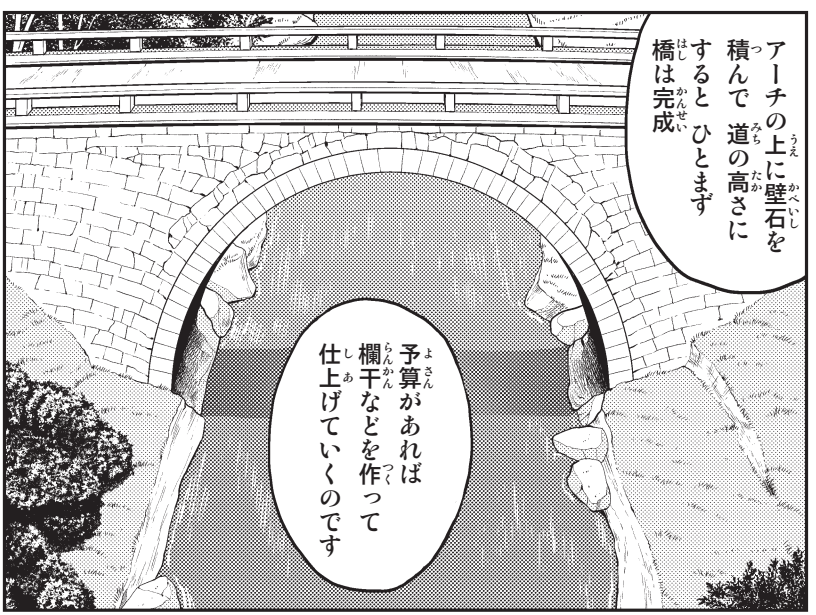
次にアーチの土台となる木の支え「支保工」の作成です

川の増水で流されぬよう渇水期に組みます

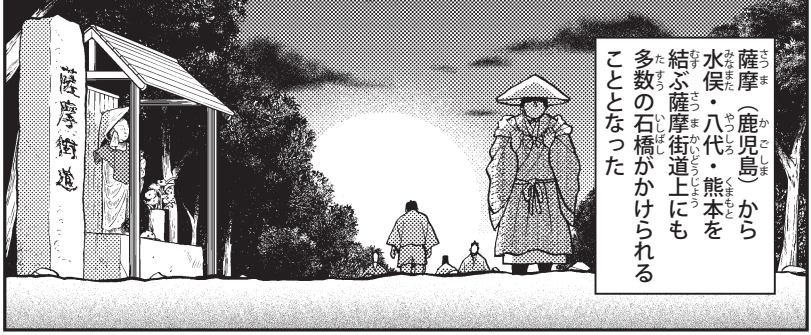
「輪石」を両岸から支保工の上に乗せアーチを作ってゆきます

頂上のすき間に「要石」を置き上からついてしっかりとはめ込みます

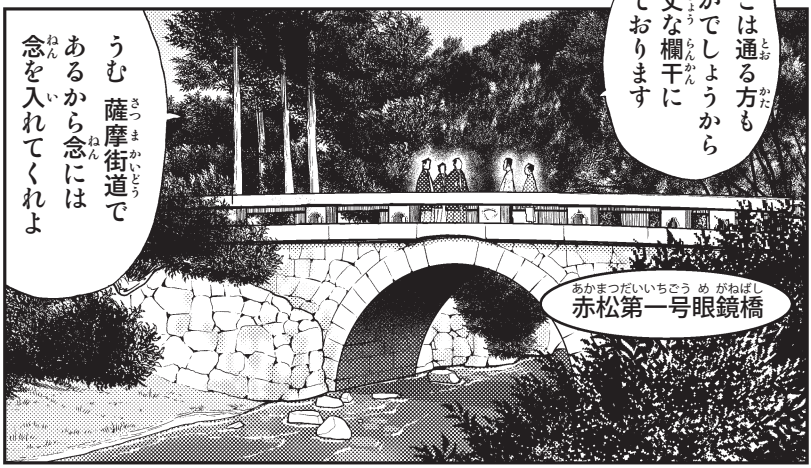

石は引っ張りや曲げには弱いけれど 圧縮には強い――
その特徴を生かし圧縮の重みを強い地盤の両岸に伝えるのがアーチ式の石橋なので
支保工を外すとアーチは自分の重みで噛み合い安定します


アーチの上に壁石を積んで 道の高さにすると ひとまず橋は完成
予算があれば欄干などを作って仕上げていくのです

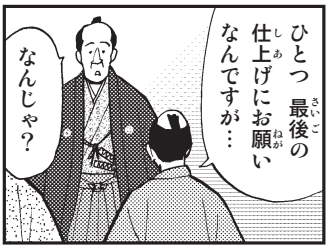
種山・野津の石工たちの技術力の高さは各地で評判となり、活躍の場を徐々に広げていくことになる……。


薩摩街道
薩摩（鹿児島）から水俣・八代・熊本を結ぶ薩摩街道上にも多数の石橋がかけられることとなった

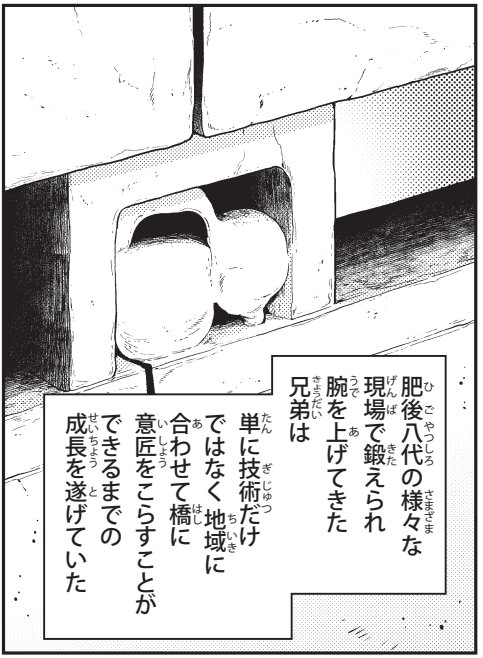
嘉永5(1852)年

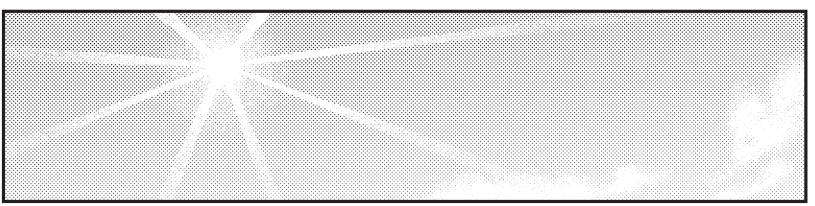

ここは通る方も多かでしょうから頑丈な欄干にしております
うむ 薩摩街道であるから念には念を入れてくれよ
赤松第一号眼鏡橋

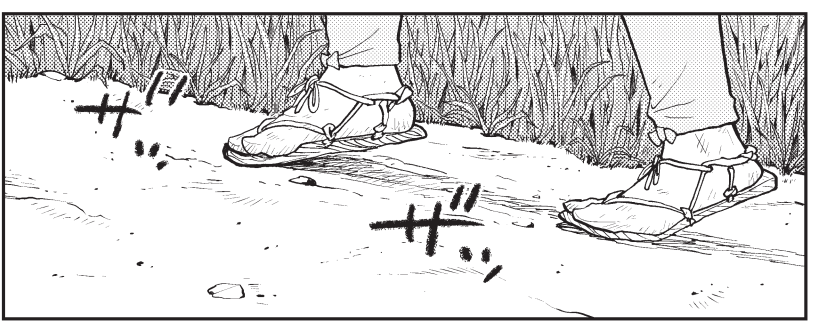
それはもう橋は百年でも百五十年でもビクともせんです
あのぅ…

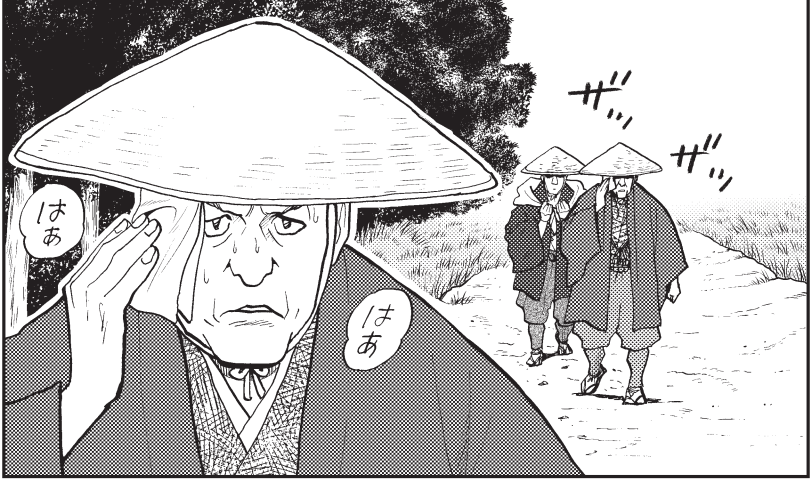

ひとつ 最後の仕上げにお願いなんですが…
なんじゃ？

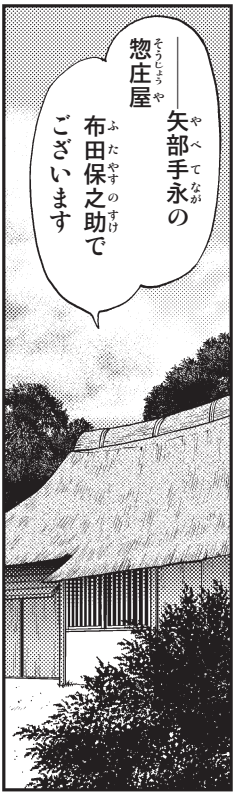
通られる方の楽しみにもなりますから
欄干に彫刻を彫らせてもろうてもよかでしょうか

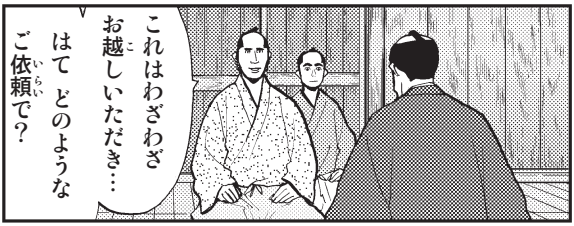

肥後八代の様々な現場で鍛えられ腕を上げてきた兄弟は
単に技術だけではなく地域に合わせて橋に意匠をこらすことができるまでの成長を遂げていた

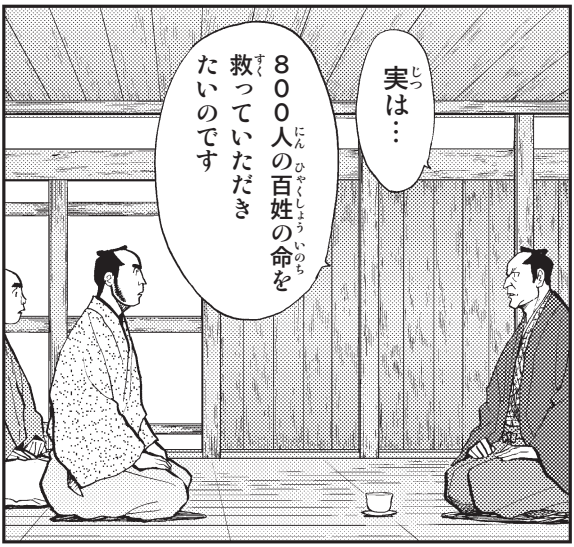





ザッ
ザッ
はあ
はあ


――矢部手永の
惣庄屋
布田保之助で
ございます

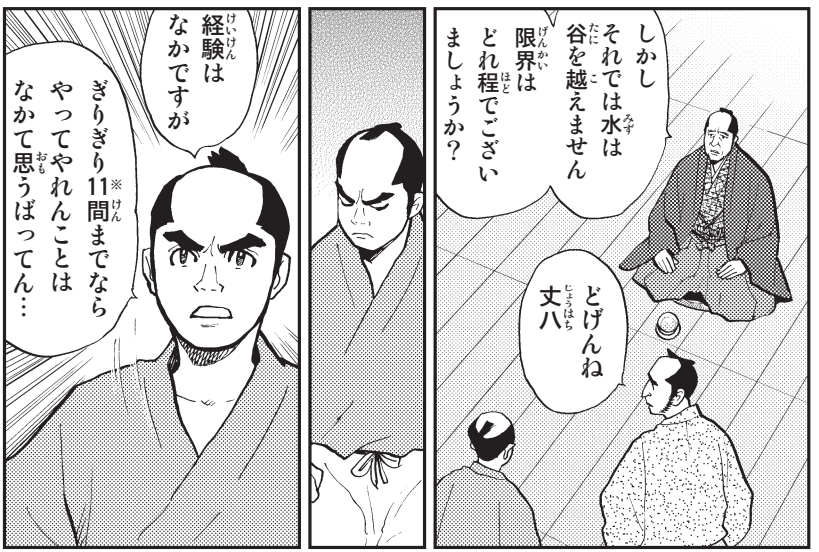

これはわざわざ
お越しいただき…
はて どのような
ご依頼で？


実は…
800人の百姓の命を
救っていただき
たいのです

矢部は地形も地味も悪く百姓はみな苦労しております

とりわけ白糸台地は周りが深い谷で年中水がない
白糸台地
三方を谷に囲まれている
川から用水路で持ってきて橋で谷を渡すしかないのです

人でなく…
水を渡す橋…
のちに通潤橋と呼ばれる日本一の水路橋建設依頼である

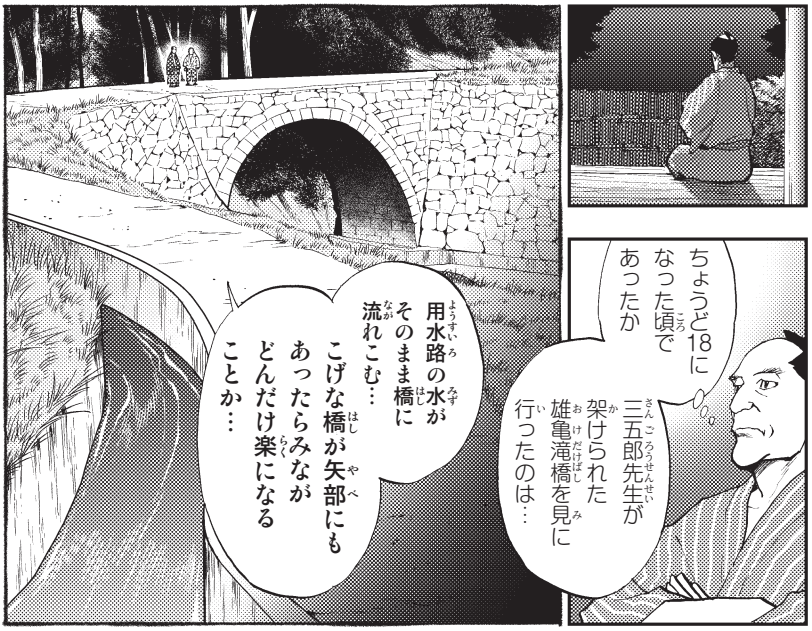


※1間＝1・818メートル　11間＝20メートル

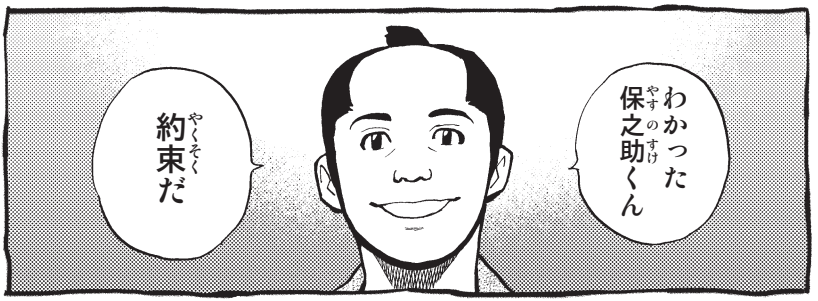
丈八の腕前の良さが
わかる「ひねり燈籠」

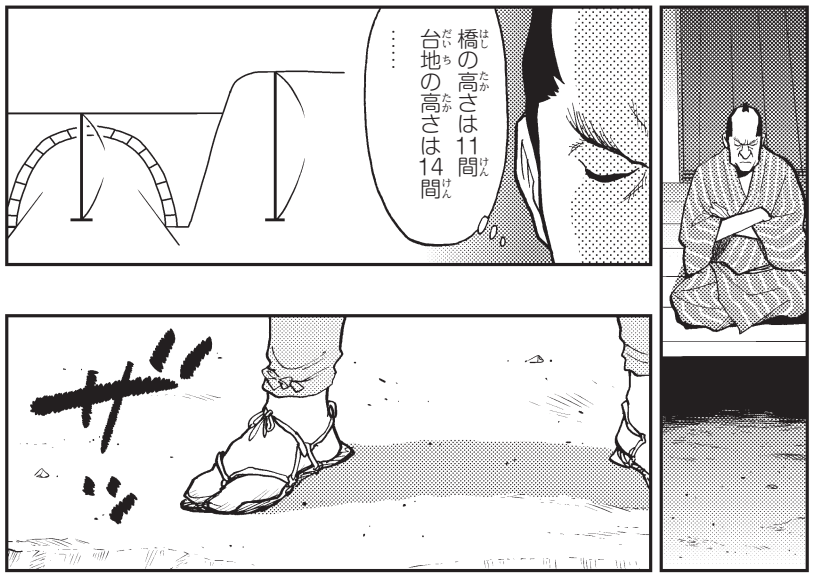
八代市東陽町の種山にある
若宮神社には丈八の石工
としての技術力が一目で
わかるひねり燈籠が
残されています

30歳の時の作で
力持ちが石燈籠の柱を
ひとひねりしたような
デザインは丈八の遊び心と
職人としての余裕を感じさせます

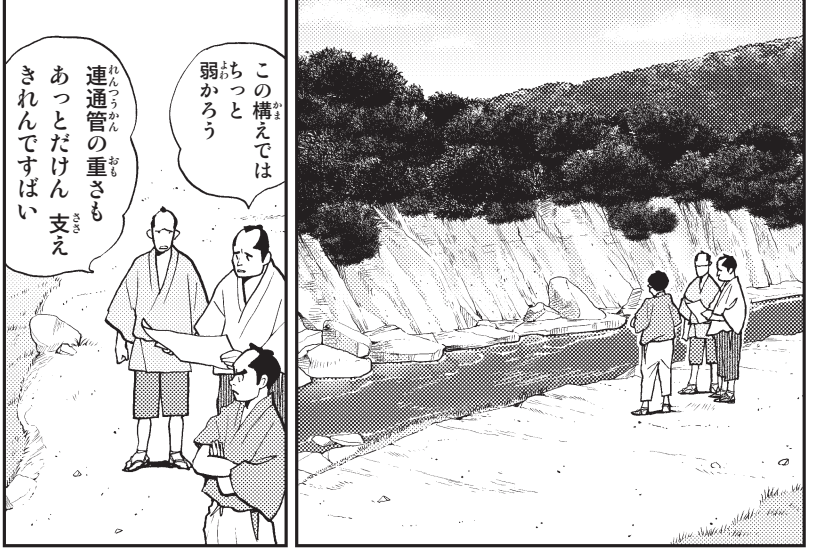


いつか自分が惣庄屋になれたら矢部にもこの橋を作りたい！
そん時は必ず作ってくれると約束してください！三五郎先生!!


わかった保之助くん
約束だ


橋の高さは11間台地の高さは14間……
ザッ

橋の上から3間分の水を持ち上げるにはやはり〝連通管〟しかない！
石のパイプで橋の上を通る水路を作る
水を高い所から低い所へ流す
水の流れにいきおいがついて
ふきあがる！



※鞘石垣…橋の基礎部を包んで脚部を補強する

※むしゃんよか…「かっこいい」の意味

嘉永5(1852)年
そして寒風の中工事が始まった
カッ
ヒュ
ゴリ
ゴリ
ドリ
カッ
ザァァァァァ
ゴリォォォォ
ドリォォォ
カァン
ゴリォォォォ

種山石工と矢部郷の人々が力を合わせ 世紀の大工事は着々と進んだ

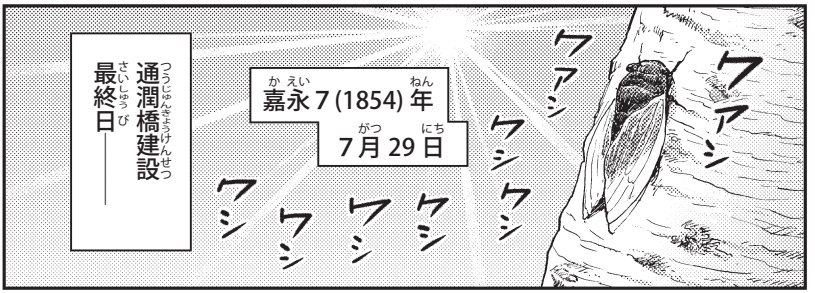
ダァァァン

ゴォォォン

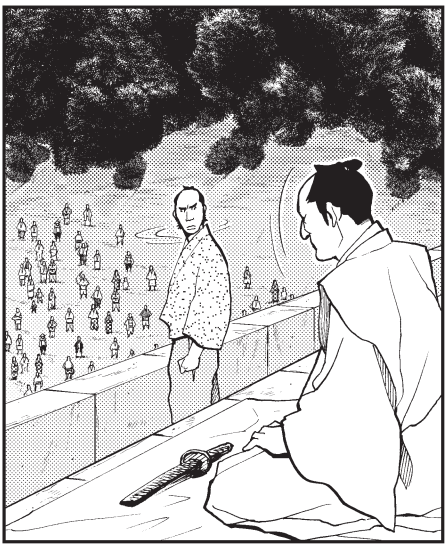
ドォォォン

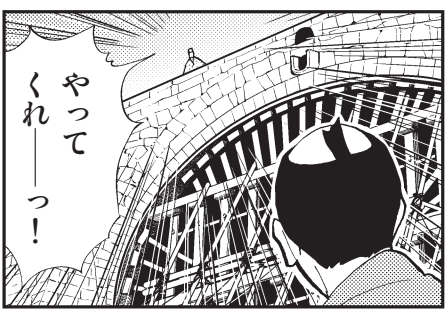
通潤橋

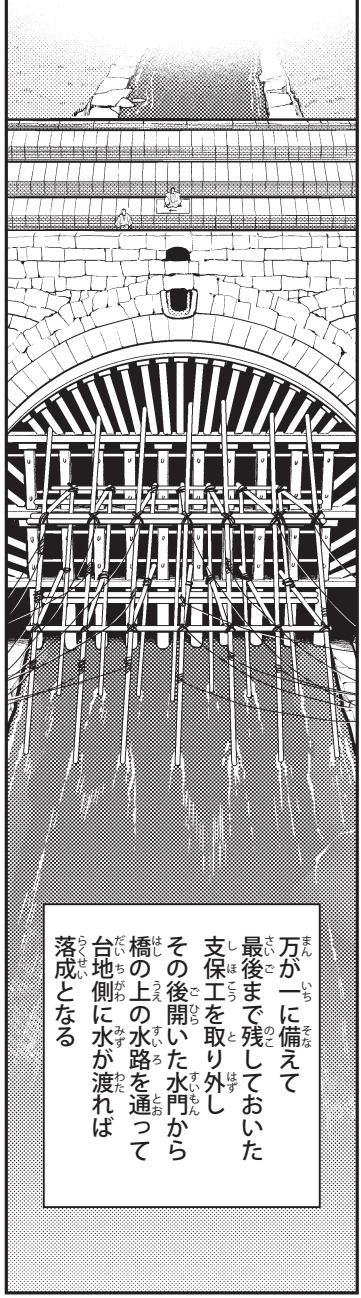
・工期…1年8ヵ月
・石工 大工 人夫 手伝夫 合計のべ5万人
・連通管の数…638個
・橋の建設費 銀319貫400匁6分（約17億5000万円）
・全長…75・6m
全幅…6・3m
高さ…20・2m
アーチの直径…27・5m



始めまするぞ――っ！
よろしゅうございますか――っ！




やってくれ――っ！


万が一に備えて
最後まで残しておいた
支保工を取り外し
その後開いた水門から
橋の上の水路を通って
台地側に水が渡れば
落成となる

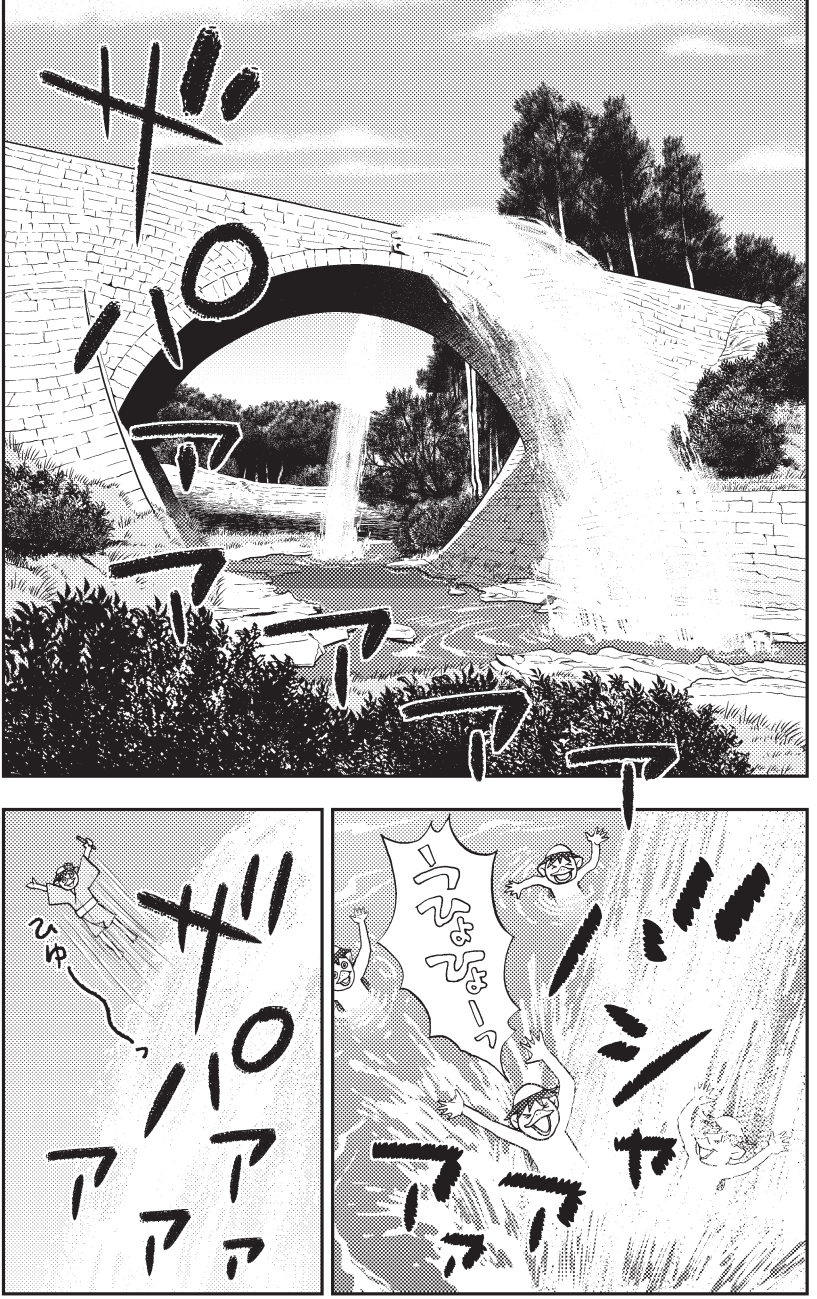
よぉし！
引けぇ――っ！
ヨィショーッ!!
ゴォォォ
ゴゴゴゴ
バラバラバラバラ
ガラガラガラガラ
シャァァァ
お――っ！
ビクともしとらん！
見事ばーい！

あとは…水！
ドォーン
ゴゴゴ

ハンヤ
おおおおおアア
ファアアアア

保之助くん
約束だ
ファ
ファ
ファ
ファ
三五郎は3年前
薩摩から野津に
戻り亡くなっていた
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
しかし八代の石工たちに
技術を伝えたことで
彼は保之助との約束を
果たしたと言えるだろう

ワ
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
こうして不毛といわれた
台地は百町以上もの
豊かな水田地帯に
姿を変えてゆくのである


ザパーン
ジャーン
うひょひょーっ
ザパーン
ひゅーっ

通潤橋の名物となった放水ですが 実は石の管の掃除のために行われているんですねぇ～っ

放水の日はあちこちの川から河童がやって来てにぎわいます

私たち河童はこれがとっても楽しみ

ザパーッ

ひょひょっ

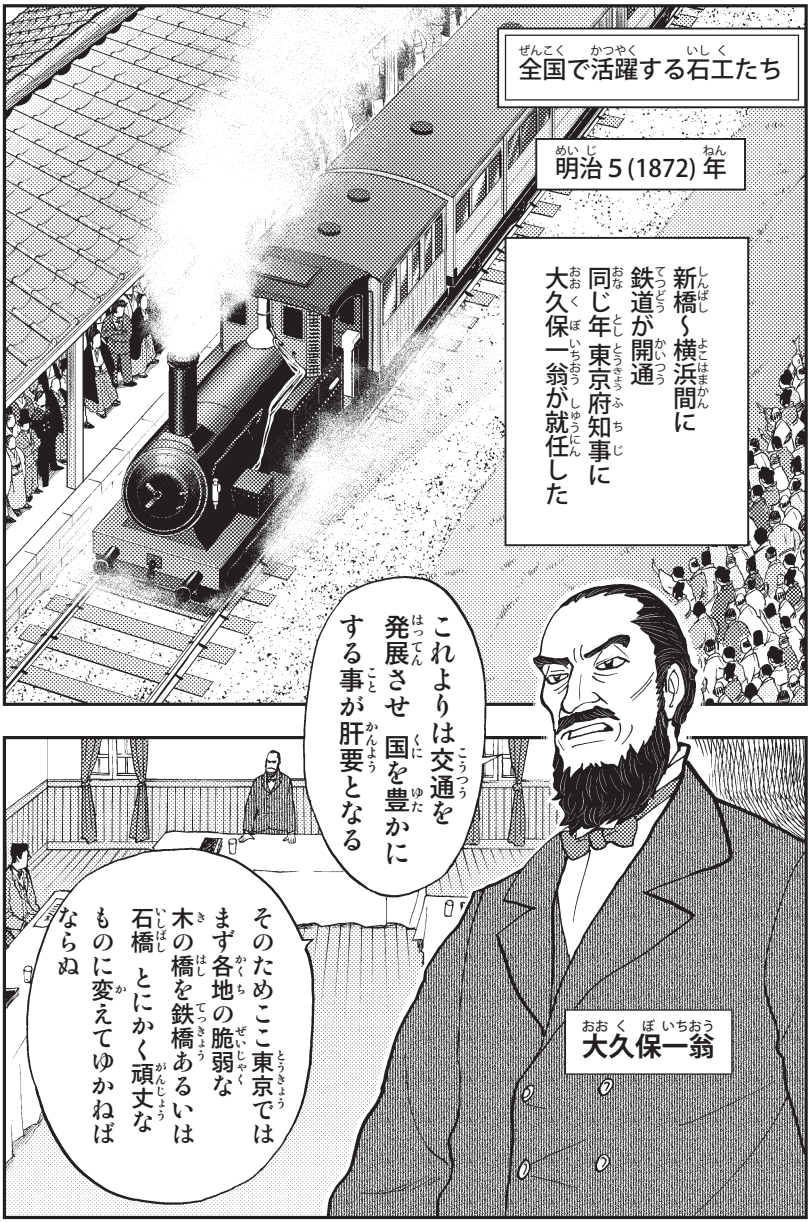
さて この後丈八さんは苗字御免となりまして橋本勘五郎を名乗り ますます活躍の場をひろげていきます

では勘五郎棟梁を追って……

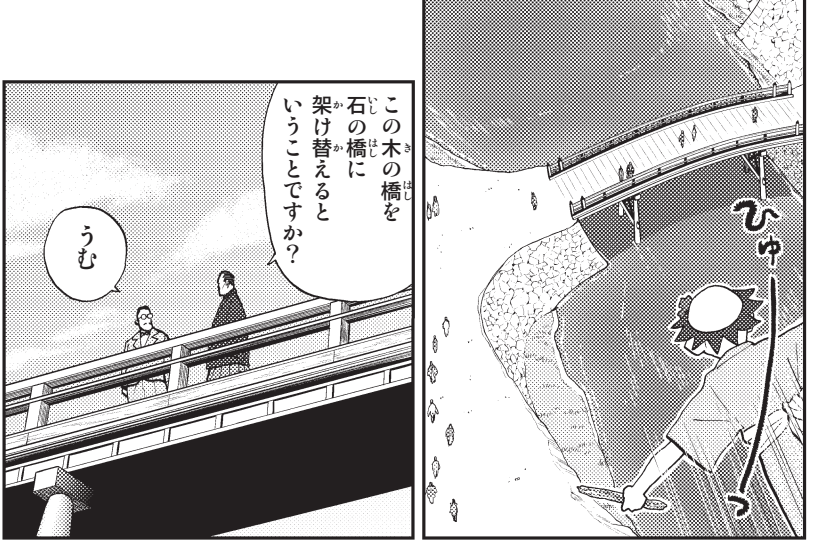
いざ東京へ！

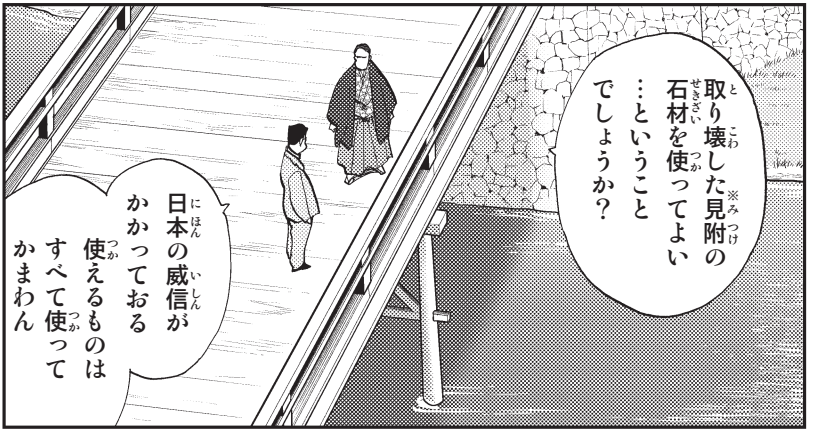
ザパーッ

ひゅ～ん


全国で活躍する石工たち
明治5(1872)年
新橋～横浜間に鉄道が開通
同じ年東京府知事に大久保一翁が就任した
これよりは交通を発展させ 国を豊かにする事が肝要となる
そのためここ東京ではまず各地の脆弱な木の橋を鉄橋あるいは石橋 とにかく頑丈なものに変えてゆかねばならぬ
大久保一翁

鉄橋はドイツからの技師に見積りさせたところ とても予算に合いません
石の橋はどうだ どの国なら作れるのか？
ドンッ
それならば肥後国の石工にやらせてみたいと思うのですが……
肥後？
肥後の石工の技術力の高さは薩摩からも伝わっております故
うむ…
そうであれば良かろう
フンッ
東京府知事は外国に頼みたかったみたいですが
丈八あらため橋本勘五郎棟梁はめがね橋の評判を聞きつけた明治政府の招きで上京していたのです
ひゅーん





※見附…江戸時代人の出入りを監視するために橋の手前に設けた門と石垣

わかりました
八代で培った
技術を使って
精一杯取り組ま
せていただきます

石を切り出す労力も
運んでくる手間も
省けたことで見積りと
設計はすぐに採用となり
さっそく熊本から
石工たちが集合して
工事が始められた

明治6(1873)年

首都東京に初めて
誕生しためがね橋は
「萬世橋」と名付け
られた

江戸時代から
九州には当たり前に
あっためがね橋だが

東京の人々にとっては
これも〝文明開化〟を
実感させる建造物で
あったに違いない

※萬世橋…その後「まんせいばし」という読み方が一般化した

こうして八代の石工の実力は東京中に知れ渡ることになり次々と架橋の依頼が寄せられるのです
ぴゅーっ
明治6(1873)年
浅草橋
建設中の浅草橋の前で指揮をとる勘五郎棟梁です
こちらは日本橋川に架ける江戸橋を建設中の棟梁です
のちに浮世絵に描かれるほどの評判を呼ぶことになるんですよっ
こうして首都東京でその名声を高めた勘五郎棟梁は…
熊本に戻ってからも精力的に橋を架け続けます！
ぴゅーーーーーっ

明治8(1875)年

明八橋

熊本城下武士の町・新町と町人の町・古町は坪井川で隔てられていました

この2本の橋が2つの町を結びました

明治10(1877)年

明十橋

明治14(1881)年

高井川橋

のちに国道3号線となる当時の薩摩街道に新政府が架けた高井川橋は親柱の擬宝珠や添え石の丸いくり抜きに石工の意気込みを感じます

現場からは以上です

数多くのめがね橋を
世に送り出した
勘五郎の晩年の
作品は種山の山中に
遺されていた
ザッ
ザッ
ズッ
お前さまと
お前さまは
相性が良ささそう
じゃの
ファサッ

※鍛冶屋自然石橋…2007年の大雨で流失。2年後に架けられた大久保自然石橋は同年の大雨で多少崩れるも、現存している。

祭・名産・伝統
石工が八代に遺したもの

チュン
チュン
チュン

笠松橋

おはようございます

あら元気しとったね

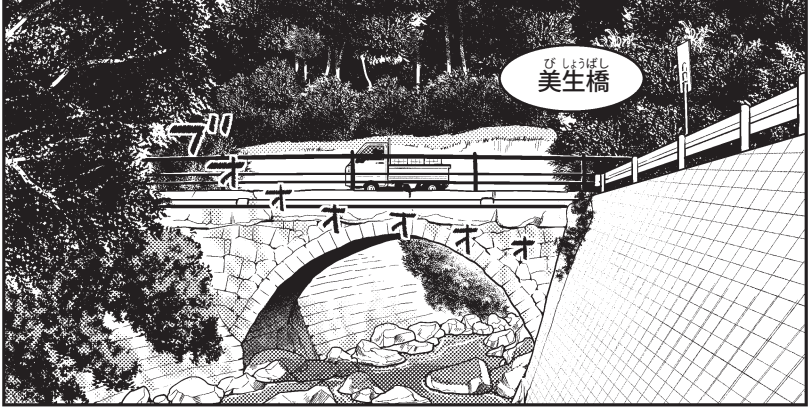
八代市東陽町では種山の石工が手がけたたくさんのめがね橋が今も現役で活躍している

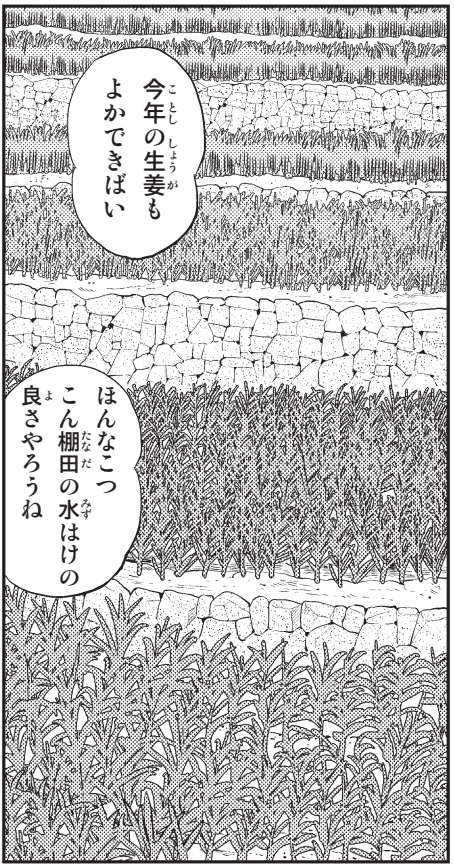
鹿路橋

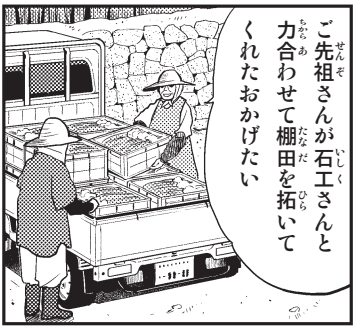
前向いて歩けー

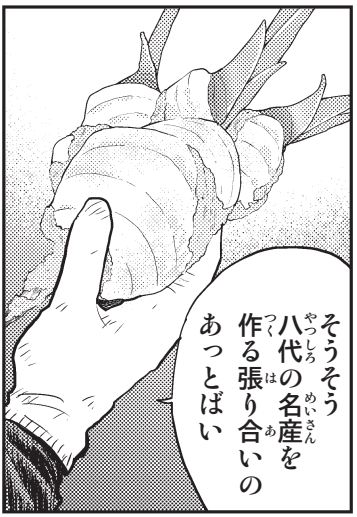
ブイ

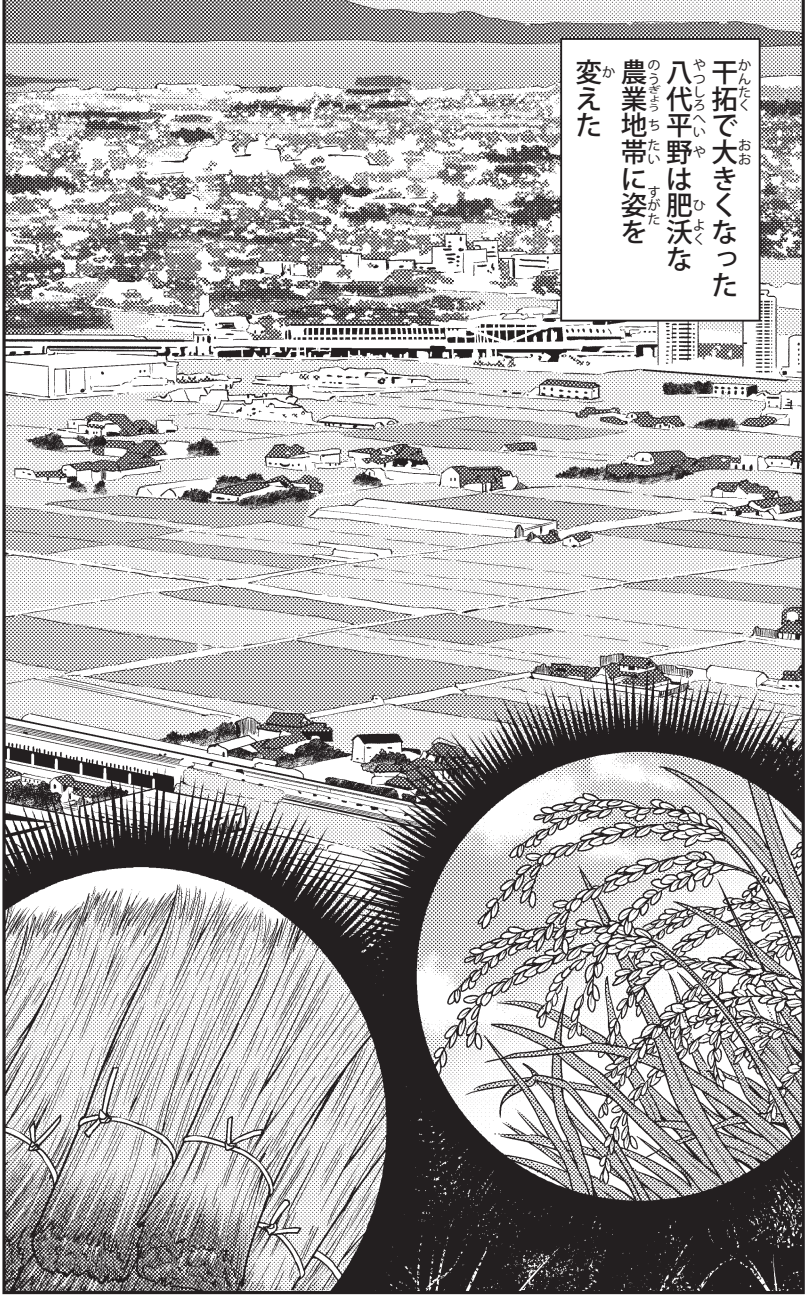
谷川橋

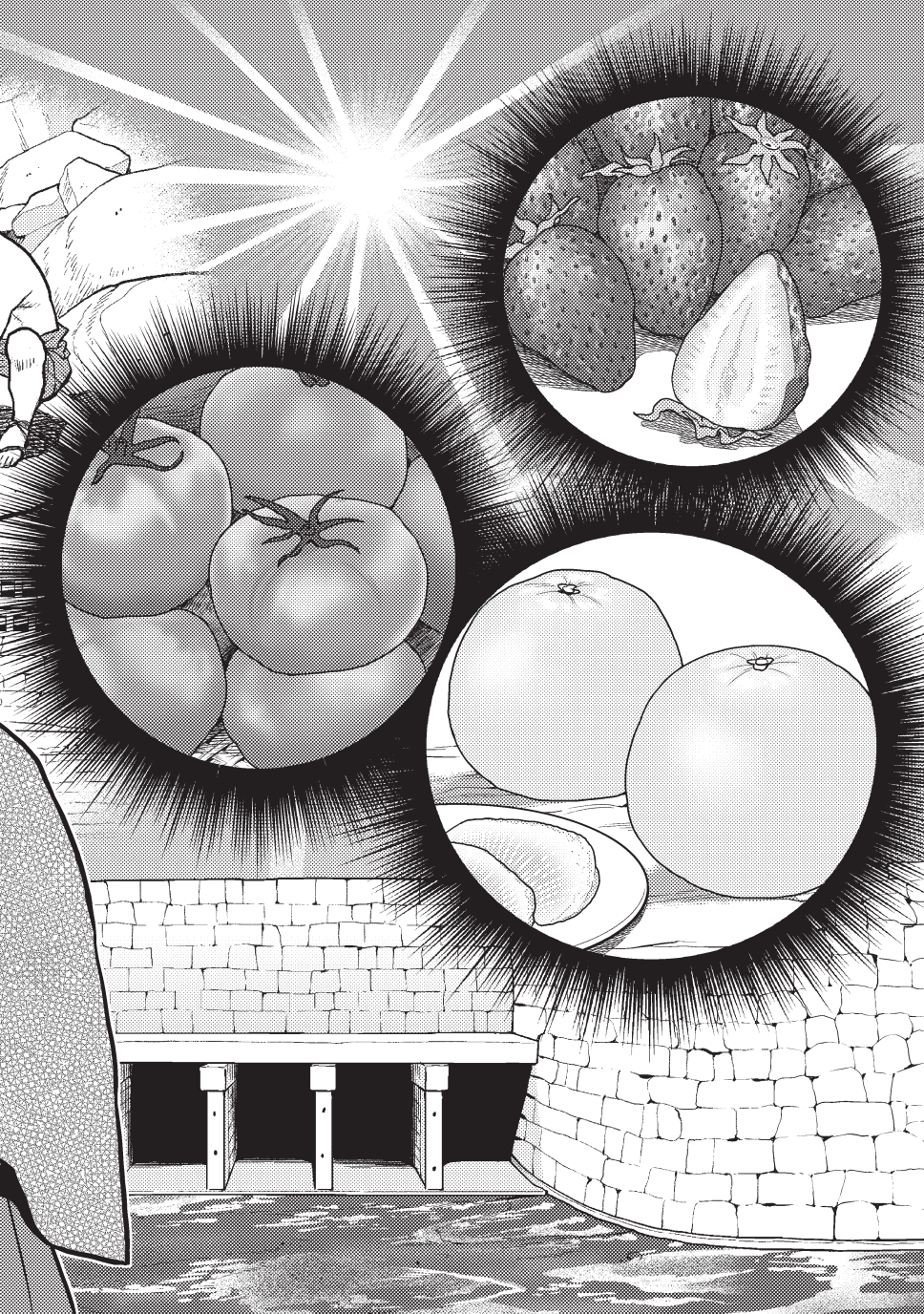

美生橋
ブオオオオオオオ


今年の生姜もよかできばい
ほんなこつこん棚田の水はけの良さやろうね


ご先祖さんが石工さんと力合わせて棚田を拓いてくれたおかげたい


そうそう八代の名産を作る張り合いのあっとばい

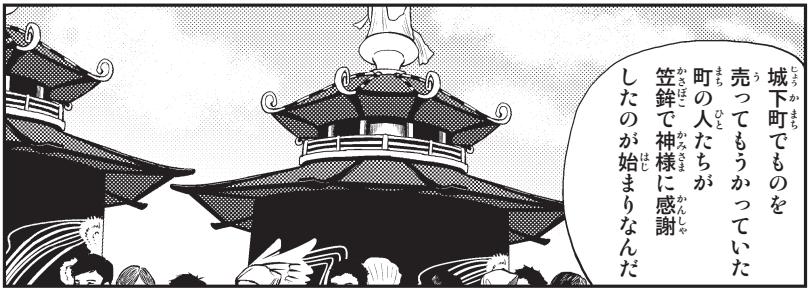

干拓で大きくなった
八代平野は肥沃な
農業地帯に姿を
変えた

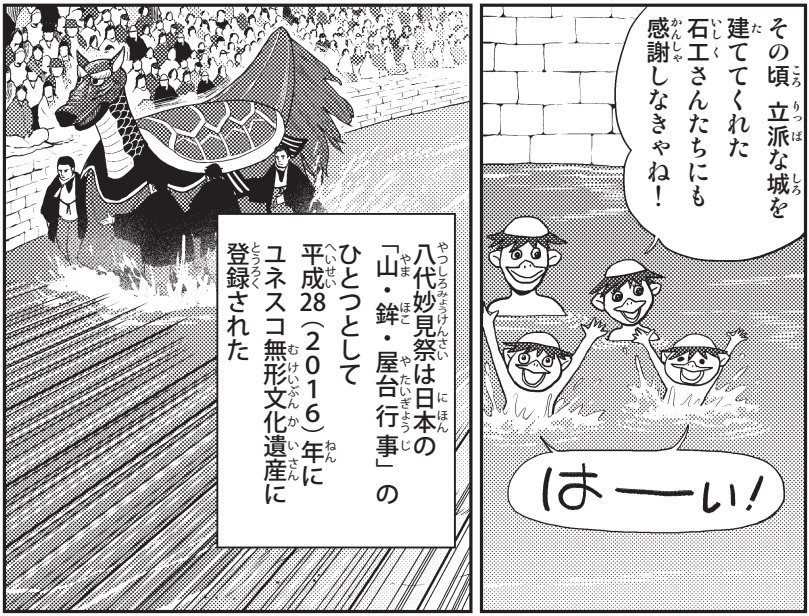


時代は移り
石工たちの姿はもう
八代にはない
しかし無名の石工たちが
やり遂げた多くの仕事が
今も私たちの暮らしに
実りをもたらして
くれている

八代妙見祭
ワアアア

そう
江戸時代の
初期ね
この妙見祭は
それからずっと
続いてる八代の
お祭なんだよ
へえーっ


城下町でものを
売ってもうかっていた
町の人たちが
笠鉾で神様に感謝
したのが始まりなんだ


その頃 立派な城を
建ててくれた
石工さんたちにも
感謝しなきゃね！
はーい！
八代妙見祭は日本の
「山・鉾・屋台行事」の
ひとつとして
平成28（2016）年に
ユネスコ無形文化遺産に
登録された

そして八代発展の礎となった石工たちの物語を紡ぐストーリー「八代を創造した石工たちの軌跡」が令和2（2020）年に日本遺産に認定された

ふるさと八代の誇りはこの先も大切に守られていく

以上「八代 石工ものがたり」でした――っ！

【日本遺産】
八代を創造（たがや）した石工（いしく）たちの軌跡
石工の郷に息づく石造りのレガシー

日本遺産とは

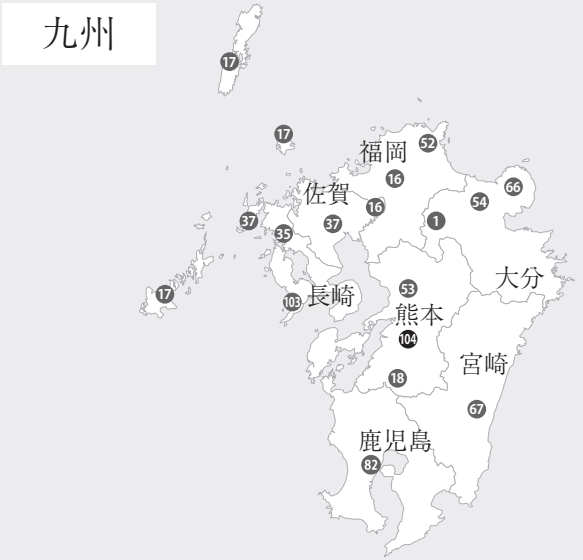
「日本遺産（Japan Heritage）」とは、日本各地のそれぞれの歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものとして、平成27（２０１５）年度に事業が開始され、令和３年４月１日現在で、１０４件が認定されています。

日本遺産の認定ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

日本遺産には、複数の市町村にまたがってストーリーが展開される「シリアル型」と、単一の市町村内でストーリーが完結する「地域型」の２種類があります。

八代市のストーリーは令和２（２０２０）年度に認定され、14件ある九州の認定ストーリーのなかで、唯一の「地域型」日本遺産となっています。

ここでは、八代の日本遺産を構成する24の文化財をストーリーに沿って紹介します。



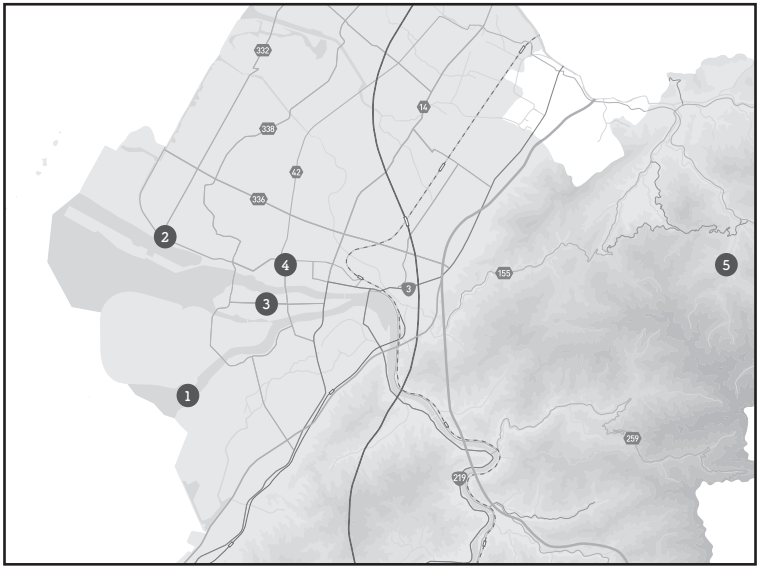
16 ……古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～
104 ……**八代を創造した石工たちの軌跡～石工の郷に息づく石造りのレガシー～**
1 ……近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－
17 ……国境の島　壱岐・対馬・五島　～古代からの架け橋～
18 ……相良700年が生んだ保守と進取の文化
～日本でもっとも豊かな隠れ里－人吉球磨～
35 ……鎮守府　横須賀・呉・佐世保・舞鶴　～日本近代化の躍動を体感できるまち～
37 ……日本磁器のふるさと　肥前　～百花繚乱のやきもの散歩～
52 ……関門"ノスタルジック"海峡　～時の停車場、近代化の記憶～
53 ……米作り、二千年にわたる大地の記憶　～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～
54 ……やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく
66 ……鬼が仏になった里「くにさき」
67 ……古代人のモニュメント －台地に絵を描く　南国宮崎の古墳景観－
82 ……薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～
103 ……砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～

九州の日本遺産一覧（文化庁「日本遺産」パンフレットより）

【ストーリー】

育まれてきた「石工の郷」の風土

八代の人々は、阿蘇山の噴火活動により堆積した「凝灰岩」や、良質な「石灰岩」の地層が点在する、この地の環境を活かし、古来より地域で採れる石材を活用したまちづくりを行ってきました。八代城の石垣・干拓樋門・石積みの棚田・めがね橋など、八代各地に現存するこれらの石造建築物の数々は、多くの名石工を輩出した「石工の郷」の風土が、この地で脈々と育まれてきたことを物語っています。



【構成文化財】

① 水島（不知火及び水島）国指定名勝

球磨川の河口にある水島は、「不知火及び水島」として知られる国指定の名勝で、『日本書紀』や『万葉集』にも書かれています。

島には、石灰岩を採掘した際にできた矢穴が残されており、石工たち活躍の証を見ることができます。

また、朝夕にはとても神秘的な雰囲気が漂い、水島の向こう、八代海の先にうっすらと浮かぶ天草諸島の風景も絶景です。

② 白島

質がいい石灰岩が採れる島であり、八代城築城の際、この島の石灰岩が使われたことがわかっています。現在は、石工たちも携わった干拓により周囲は陸地になっています。

③麦島城跡（八代城跡群）国指定史跡

天正16年（1588）、キリシタン大名小西行長が築城した城で、石垣に八代産の石灰岩が使われています。元和5年（1619）に、大地震によって壊れて廃城となりましたが、石垣の多くは八代城築城の際に転用されました。

現在も石垣の一部を見ることができ、石工の活躍だけでなく400年前の震災の記憶を今に伝えています。

④八代城跡（八代城跡群）国指定史跡

元和8年（1622）、熊本藩加藤氏の家臣、加藤正方が築城した城です。麦島城の石垣を転用した石材や、八代産の石灰岩を用いて築かれています。加工の難しい石灰岩を見事に積み上げた石垣は、当時の石工たちの技の高さを見る人に伝えています。

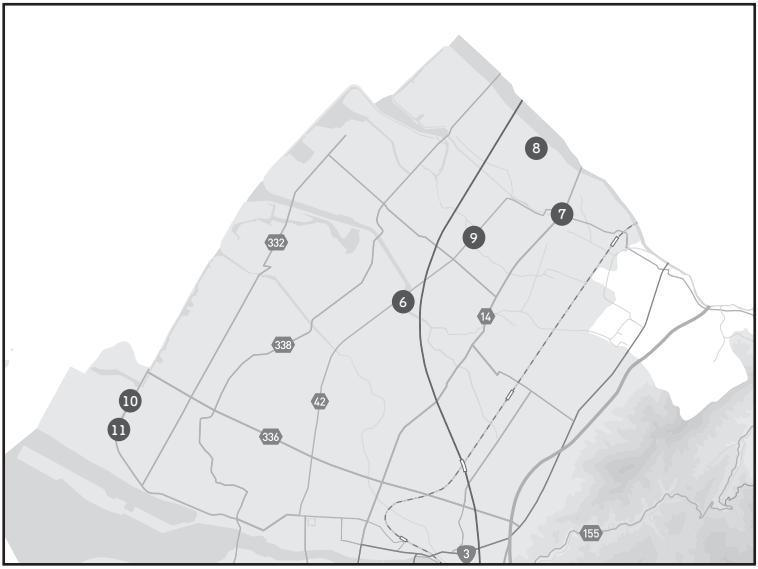
⑤美生地区の生姜棚田

地域の住民と石工たちが協力し、棚田を造ったという言い伝えが地域に残っています。「日本の棚田百景」にも選ばれており、地形を利用した、山肌を覆う美しい石積みの棚田を見ることができます。

現在は、特産品の生姜が栽培されており、生姜は様々な製品に加工され、多くの人々に親しまれています。

【ストーリー】
干拓によってもたらされた平野
―干拓事業と石工の活躍―

現在では、熊本県有数の農業地帯となっている緑豊かな八代平野も、以前は「お国一の貧地」と呼ばれるほど、平野部が狭く、農業には向かない湿地と干潟が広がる地域でした。そのため、この地では人々の暮らしを豊かにするために、江戸時代～昭和初期にかけて大規模な「干拓事業」が幾度となく行われ、現在の八代平野の実に約3分の2に及ぶ土地が干拓によってもたらされました。この干拓事業には、膨大な数の人夫が動員され、石工たちも石材の切出し、運搬、加工の担い手として長期間にわたって携わりました。こ



れにより、安定的に仕事を得ることになった石工たちは、さらに技に磨きをかけていき、活躍の幅を広げていきました。

特に、文政元年（1818）～2年（1819）に行われた四百町新地、文政4年（1821）に行われた七百町新地の造成事業で石工たちは大いに活躍しました。長年の経験によって培われた技術を活かし、巨石を用いて強固に築かれた「大鞘樋門」に代表される干拓樋門、干拓地を潤す「用水路」、橋の建設などに大きく貢献しました。また、備前から導入した干拓技術の定着にも寄与し、八代の干拓を長きにわたって支える技術者集団として、多岐にわたって活躍しました。

その中でも、石工「三五郎」は、七百町新地造成の際に、石工たちの総取締役に任命され、多くの石工たちを率いて干拓事業の成功に大きく貢献しました。その功績が高く評価された三五郎は、職人が功績によって苗字を許されることが極めて稀であった当時、特例で「岩永」の苗字を名乗ることが認められました。

その名声は、各地の為政者の耳にも届き、薩摩藩に招かれ大型のめがね橋の架橋をおこなうなど、活躍の場を更に広げていくことになりました。

広大な干潟を開拓した干拓事業を契機として、技術を磨き上げた「名もなき石工」たちは「名石工」として、歴史の表舞台に躍り出ていくことになったのです。

【構成文化財】

⑥大鞘樋門群　国指定史跡

文政2年（1819）の「四百町新地」干拓事業の際に建てられた樋門です。普段はお城以外には使われることの少ない巨大な石が使われています。樋門を建てる際、石の加工・運搬、石材の積み上げなどに、八代の石工が携わったとされています。

⑦鑑内橋　市指定（建造物）

名石工「岩永三五郎」が架けたとの言い伝えが残るめがね橋です。天草で採れる砂岩を使用しているという特徴があります。

⑧岩永三五郎の墓　市指定（史跡）

三五郎は寛政5年（1793）に野津（現八代郡氷川町）に生まれ、後に芝口（現八代市

鏡町）に移住したとされています。文政4年（1821）の「七百町新地」の造成の際、石工たちの総取締役である「八代郡中石工共惣引廻役」に任命され、多くの石工たちを率いて干拓事業の成功に大きく貢献しました。その功績が高く評価されたことにより、職人が功績によって苗字を許されることがとても珍しかった当時、特別に「岩永」の苗字を名乗ることが認められました。

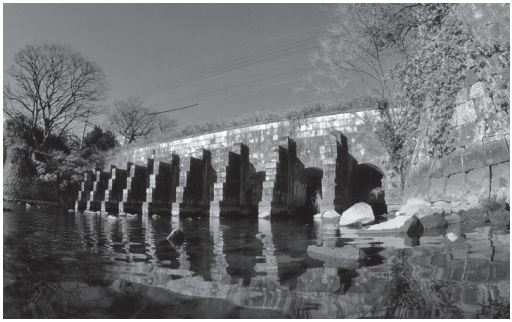
嘉永4年（1851）、59歳で亡くなり、芝口にお墓があります。現在も、干拓事業を成功に導いた人物の一人として、地域の人々に親しまれています。

⑨ 文政神社

干拓事業に関わった人たちを祀っています。明治43年（1910）、干拓事業の偉業をたたえるために、百町・四百町・七百町の3新地の接点にあたる場所に、地域の人たちによって建てられました。

⑩ 旧郡築新地甲号樋門 附・潮受堤防

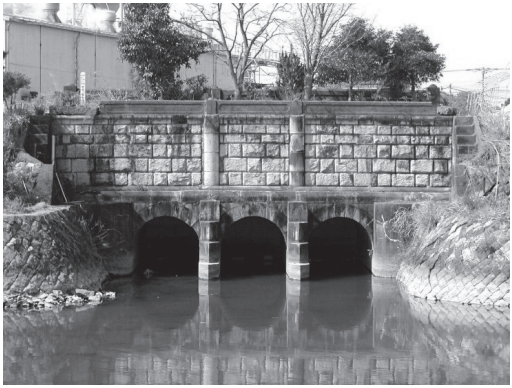
国指定重文（建造物）・国指定史跡



明治時代に行われた「郡築新地」の干拓事業の際に建てられた石造10連アーチの樋門です。高度な石材加工・建築技術を使って造られており、現存する石造樋門として国内最大規模です。1046haという広大な干拓平野をもたらした事業から100年経った現在も、樋門としての役割を果たしています。

⑪ 郡築二番町樋門

国指定史跡



高潮によって壊れてしまった堤防を補強するため、昭和13年（1938）に造られた石造3連アーチの樋門です。この時期に建てられた他地域の樋門の多くがコンクリート造であるのに対し、石造の樋門であるという特徴があり、八代で長い間石工が活躍していたことを現在に伝えています。

【ストーリー】
石工たちの技の結晶
―めがね橋―

「めがね橋」の架設技術は、中国やオランダから九州の長崎に伝わった技術がこの地に伝わったとも、地域の石工たちが、自然が生み出した「白髪岳天然石橋」の見事なアーチの造形から着想を得て、架橋技術を編み出したともいわれています。そしてその技術は、多くの石工たちが生活した山間部の種山地域（現八代市東陽町）を中心に、八代各地で脈々と受け継がれてきました。

八代では、江戸時代末から昭和初期にかけて、地域住民が架橋費用を工面し、住民主体で「めがね橋」が架けられていきます。そ

のため、石工たちは実用性に重点をおき、地域の人々の要望や予算に合わせ、無駄を出来るだけ省いためがね橋の架橋を行ってきました。

八代で架けられためがね橋の多くは、橋の強度を大きく左右するアーチ部分は丁寧な加工を施した石材を使用する一方、壁石には各地で簡単に手に入る自然石を使用しており、できる限り費用を抑えながらも、丈夫な橋を架ける工夫が施されています。

めがね橋の架設を手掛ける中で、石工たちは石材加工技術だけでなく、依頼主の要望に応じた細やかな設計、人脈を駆使した人材・資材確保、資金運営までをトータルで行う優れた経営技術を磨き上げ、日本最高峰のめがね橋架橋技術を有する技術者集団へと成長していきました。

明治以降、風水害に強い石造建築物の需要が高まる時代の中で、安定した物流を支える石橋、山間部の農業を支える水路橋など、日本各地で石工たちの技術が必要とされるようになりました。そのため、「橋本勘五郎」に代表される優れた石工たちは、急速に近代化する首都東京の交通を支えた「神田万世橋」（東京都）、熊本の山間部の農業を支えた日本最大級の石造水路橋「通潤橋」（熊本県）をはじめ、全国各地で多くのめがね橋の架橋を成功に導くなど、活躍の場を日本全国にまで広げ、日本の近代化の足元を支えることになりました。また、かつて全国で２０００基以上架けられためがね橋の、実に約４分の１の架橋に八代の石工が携わったとも伝えられるほど、その名声は全国に轟くことになり、多くの「名石工」を輩出した八代は

「石工の郷」と呼ばれるようになったのです。

その八代では、江戸時代末から昭和の初めにかけて、「鍛冶屋橋」のような5mにも満たない橋から、「笠松橋」のような20mを超える橋に至るまで、90基を超えるめがね橋が架けられました。そして、石工たちが魂を吹き込み、時に命を掛けて造った大小さまざまなめがね橋の数々は、風雪や豪雨にも耐え、今なお優美さと強健さを備えた「永代不朽の橋」として地域の人々に愛されています。そして今も、46基を数えるめがね橋が八代の人々の生活の中で生き続けています。それらは、石工たちの技術力の高さだけでなく、この地で江戸時代から昭和に至るまでの長い間、石工たちが活躍していた証を今に伝えています。

⑫ 白髪岳天然石橋

市指定（天然記念物）

地元には「天神様が山を下りて来られる際に、道を塞いでいた大岩を蹴り破って出られたためにできた」という伝説が残り、天然石橋の前の田んぼには、そのとき蹴り出された岩の欠片といわれる岩が今も残っています。また、地域には、石工たちがこの天然石橋を眺めてめがね橋のアーチ構造のヒントを得たとの言い伝えが残っています。

⑬ 鍛冶屋上・中・下橋

市指定（建造物）

種山の石工の祖との言い伝えが残る林七が1800年頃に架けたと伝わっています。数歩で渡ることができるほど、規模は小さい橋ですが、自然石を使いながらも美しいアーチが特徴的なめがね橋です。

⑭ 鹿路橋

市指定（建造物）

橋本勘五郎の父・橋本嘉八によって嘉永元年（1848）頃に架けられたと伝わる橋です。橋の長さは20mを超える八代市に存在するめがね橋の中でも比較的大きな橋です。現在も地域の方々によって除草作業などの管理が行われており、地域住民に守られています。

⑮ 笠松橋（かさまつばし）

市指定（建造物）

種山地域の石工の代表的人物である橋本勘五郎によって架けられたと伝わる橋です。現在も地域の人々の生活に使用されています。付近は公園になっており、ノミ加工の跡など、めがね橋を造った石工たちの技術力を間近で見て感じることができます。

⑯ 谷川橋（たにがわばし）

昭和4年（1929）に石工の田（たの）上甚太郎（うえじんたろう）によって架けられたとの記録が残るめがね橋です。現在確認されているめがね橋の中で、最も新しい橋であり、八代で長い間石工たちが活躍し、めがね橋を架けていたことを物語っています。石材には近くで採れた溶結凝灰岩（ようけつぎょうかいがん）という石を使っています。

⑰ 赤松第一号眼鏡橋

市指定（建造物）

八代で架けられためがね橋の中では珍しく、装飾性に富んだめがね橋であり、「やかんに湯呑み」の装飾が束柱に施してあります。橋が架けられた年・石工など詳しいことはわかっていません。

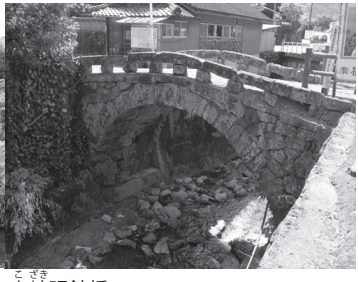
⑱ めがね橋群

市指定ほか（建造物）

八代市内には、石工たちによって江戸時代から近代にかけて架けられためがね橋が数多く残っています（現存46基）。

めがね橋の多くは、壁石は自然石の乱積で質素ながらも、アーチ部分は加工を施した石材を用いるなど、実用性を重視しており、できる限り費用を抑えな

新免眼鏡橋



小崎眼鏡橋

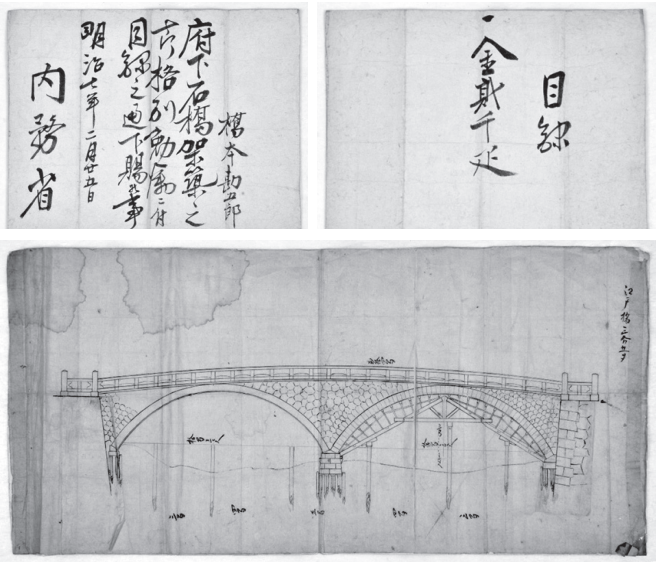
がらも、丈夫な橋を架けるための工夫がみられます。

蓼原（たではら）橋

大平（おおひら）新橋

⑲ 橋本家文書（はしもとけもんじょ）

八代の石工の代表的存在である橋本家の文書です。めがね橋の設計図や、橋を架ける際の見積書などが残されています。八代の石工が技術者としての側面と設計者としての側面、経営者としての側面を持ち、全国に活躍の場を広げることを可能にした高い能力を持っていたことを表す貴重な約１３０点もの文書群です。



【ストーリー】

石工の活躍がもたらした豊かさ

八代の人々は今もなお、石工たちの活躍がもたらした恩恵に与っており、石工たちが築き上げた功績に対し、尊敬の念を抱き、心の拠り所としています。石工たちの活躍が成功に大きく貢献した干拓事業は、広大で実り豊かな平野だけでなく、多くの入植者と共に大鞠節や女相撲といった個性豊かな文化を八代にもたらす契機となりました。干拓平野では、日本一の生産量を誇るい草をはじめとする様々な農作物が生産されているだけでなく、工事の苦労を偲んだ干拓民謡や伝統芸能が今も受け継がれ、その多様で独自の文化は

まちに賑わいを与え続けています。また、石工たちの生活拠点であった山間部には、めがね橋だけでなく、石工たちの高度な技量と遊び心を垣間見ることができるひねり加工が施された石灯籠や山肌を覆う美しい石積みの棚田の景観などが残されており、「石工の郷」の雰囲気を醸し出しています。

セメント・コンクリート時代の到来とともに、めがね橋をはじめとする石造建築物の需要は減少していき、その多くは造り替えにより、建てられてから数十年で日本各地から姿を消し、石工たちの姿も途絶えていきました。しかし八代では、干拓樋門やめがね橋など、数々の石造物が、百余年たった今も、地域に根付き、人々に大切に受け継がれ、各地で生き続けています。そして、それらは、近代化する日本の足元を支えた石工たちの活躍の歴史を今に伝えており、この地を訪れる人々を「石工の郷」にいざなう、時代を超えた懸け橋となっています。

⑳ い草及びい草製品

い草は八代で500年以上前から栽培されています。現在流通している国産のい草の約9割が干拓平野を中心とした八代の大地で生産されており、日本の畳文化を支えています。

八代ではい草を使用した日用品やインテリアだけでなく、食品など様々ない草製品が生産されています。

㉑ 大鞨節／大鞨名所

市指定（無形民俗）

江戸時代に行われた干拓で働いていた人たちが歌った民謡です。唄・太鼓・三味線の囃子に合わせて、鍬・ブリ（天秤棒の両側に籠を提げて土を運ぶ道具）を持って踊ります。現在、八代市には、八代新地大鞨節・芝口大鞨節・硴原おざや名所が残されており、多くの人々に親しまれています。

八代新地大鞨節

硴原おざや名所

㉒ 女相撲

市指定（無形民俗）

安政2年（1855）に完成した二の丸新地・八代新地築造の際、潮止め工事が難航し、周辺の村々から屈強な力士を集め潮止め口を踏み固めさせ、無事完成させたことがはじまりと伝えられています。いつから女性が主役の「女相撲」になったのかはわかっていませんが、女性以外は土俵に上がることができない全国的に珍しい民俗芸能です。

㉓ 芝口棒踊り

市指定（無形民俗）

干拓事業によってできた七百町新地に移り住んだ人々によって、収穫祭や娯楽として披露されるようになった踊りです。

㉔ ひねり灯籠

90度ねじれたように彫刻された石灯籠です。若宮神社の灯籠は嘉永4年（1851）に橋本勘五郎が造ったと伝えられています。また、近くの菅原神社の石灯籠は、嘉永7年（1854）石工の文八の作で、さらに90度ねじれています。見た人に驚きを与え、石工の遊び心、技術の高さを今に伝えています。

ひねり灯籠（若宮神社）

ひねり灯籠（菅原神社）

※この物語は史実を基に一部脚色して構成したものです。

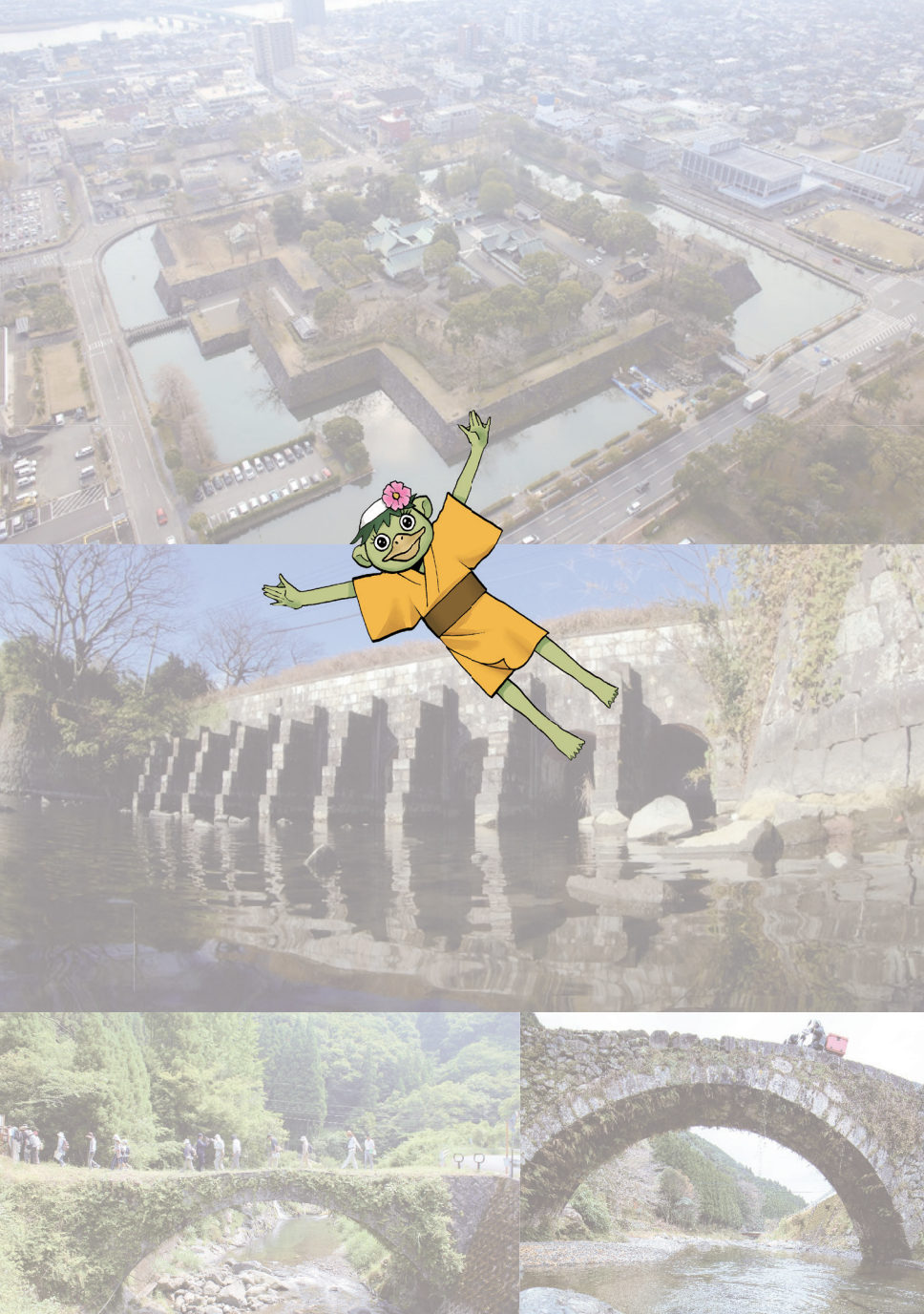
【協　　力】 ＊順不同
八代市教育委員会
八代市立博物館 未来の森ミュージアム
八代市観光・クルーズ振興課
八代市東陽支所
東陽石匠館
一般社団法人 DMO やつしろ

電子書籍版も無料公開中！
八代市のホームページにて掲載しております。
こちらの QR コード、または URL よりご覧いただけます。
http://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00317018/index.html

マンガ 八代(やつしろ) 石工(いしく)ものがたり 八代(やつしろ)を創造(たがや)した石工(いしく)たちの軌跡(きせき)

令和 4 年 3 月 25 日第 1 刷発行

発　　行　八代市日本遺産活用協議会
〒 866-8601 熊本県八代市松江城町 1 番 25 号
tel 0965-33-4533（事務局 八代市経済文化交流部 文化振興課）

マ ン ガ　向山廉平
企画制作　㈱梓書院
〒 812-0044 福岡市博多区千代 3-2-1
tel 092-643-7075　fax 092-643-7095

印刷・製本／亜細亜印刷
©2022 Yatsushiro City Printed in Japan
乱丁本・落丁本はお取替え致します。